



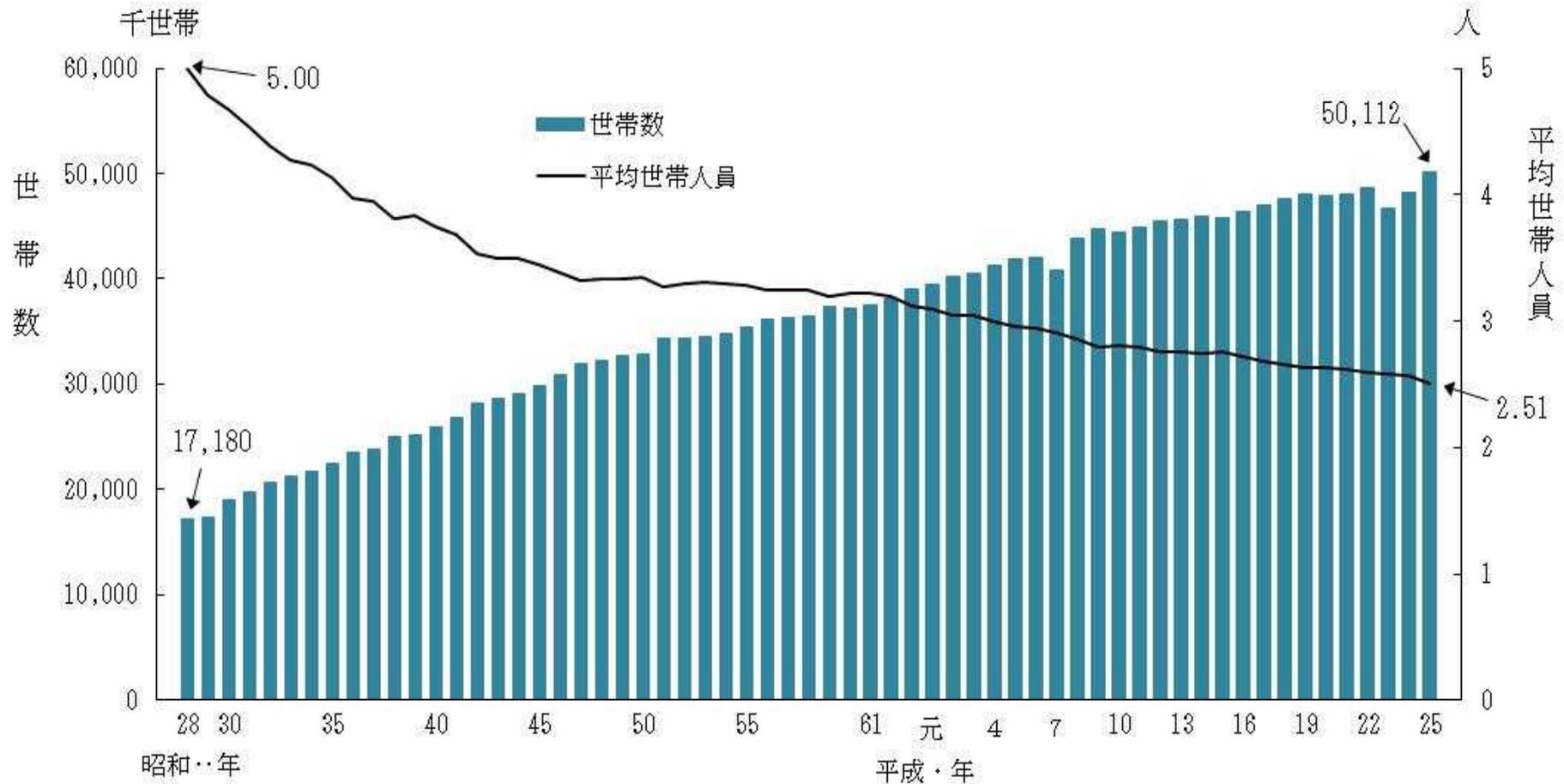
【家庭教育関連データ】

1. 家庭や家庭を取り巻く環境の変容
2. 主な社会問題
3. 学校・家庭・地域の教育力
4. 子どもの状況

1. 家庭と家庭を取り巻く環境の変容

世帯数と平均世帯人員の推移

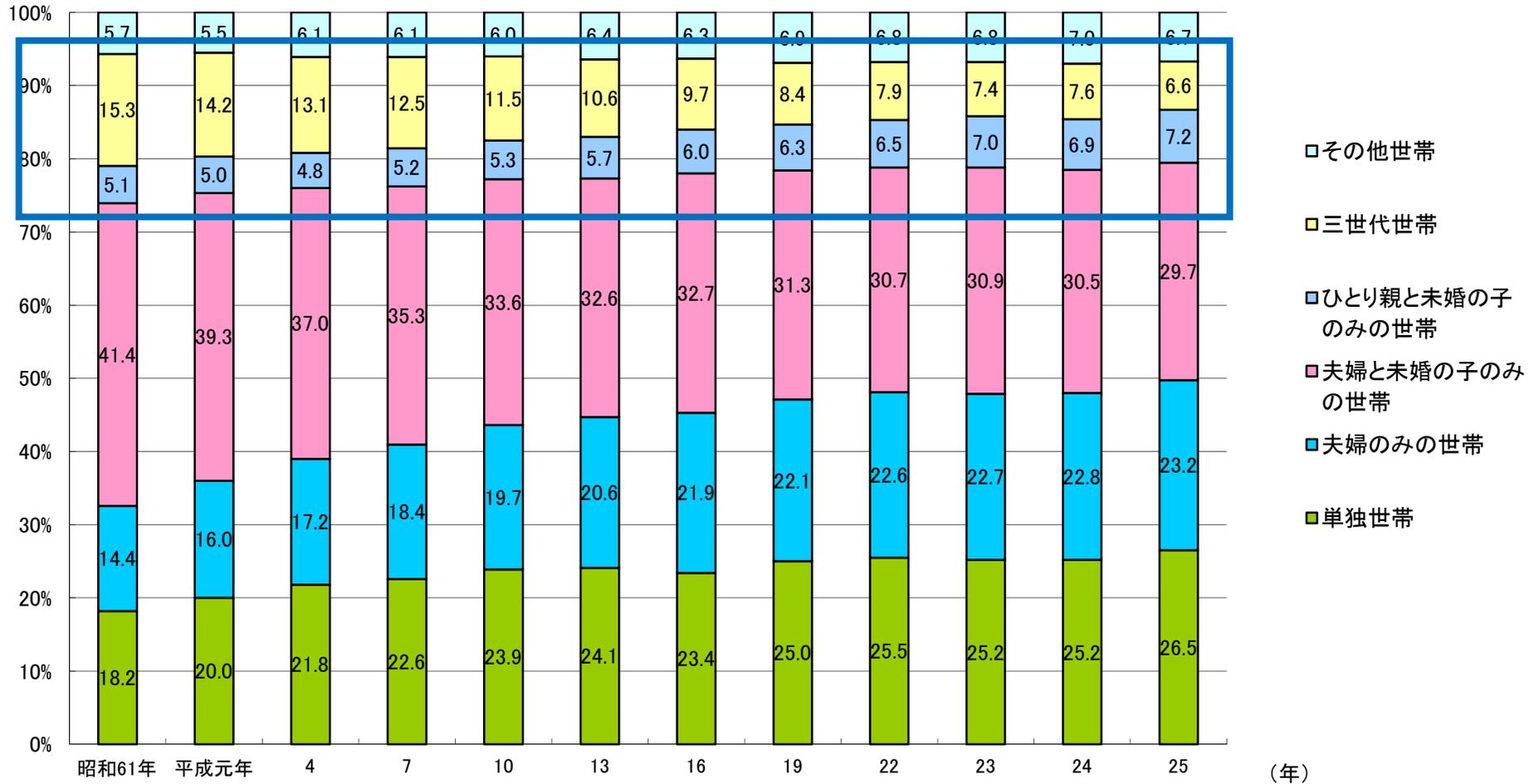
50年間で1世帯あたりの人数が半減している。



- 注：1) 平成7年の数値は、兵庫県を除いたものである。
2) 平成23年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。
3) 平成24年の数値は、福島県を除いたものである。

世帯構造別に見た世帯数の年次推移

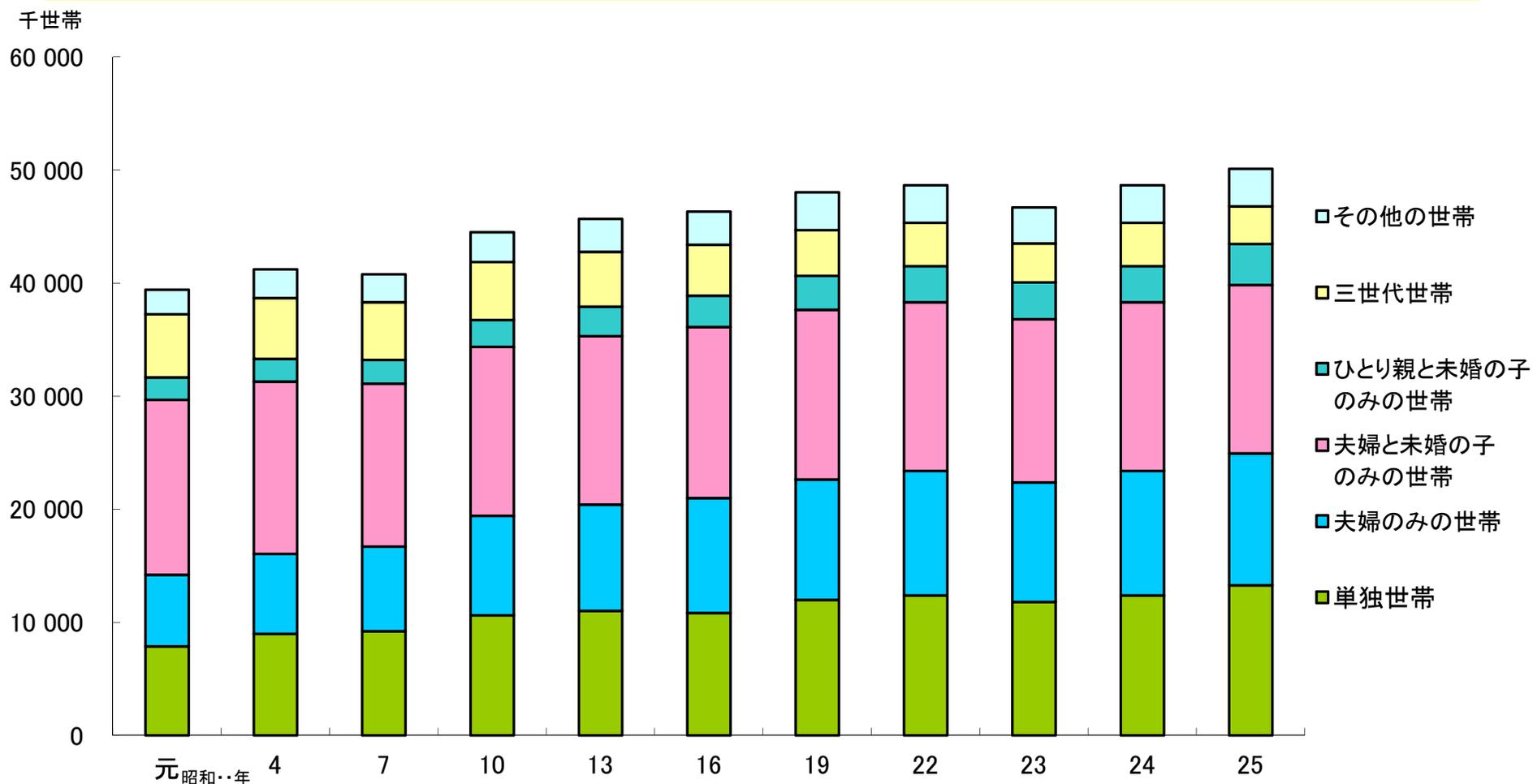
三世代世帯の割合が減少傾向にあり、ひとり親世帯の割合が増加傾向。



- 注: 1)平成7年の数値は、兵庫県を除いたものである。
 2)平成23年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。
 3)平成24年の数値は、福島県を除いたものである。
 4)「親と未婚の子のみの世帯」とは、「夫婦と未婚の子のみの世帯」「ひとり親と未婚の子のみの世帯」をいう。

世帯構造別に見た世帯数の年次推移

三世代世帯が減少傾向。



注:1)平成7年の数値は、兵庫県を除いたものである。

2)平成23年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。

3)平成24年の数値は、福島県を除いたものである。

4)「親と未婚の子のみの世帯」とは、「夫婦と未婚の子のみの世帯」「ひとり親と未婚の子のみの世帯」をいう。

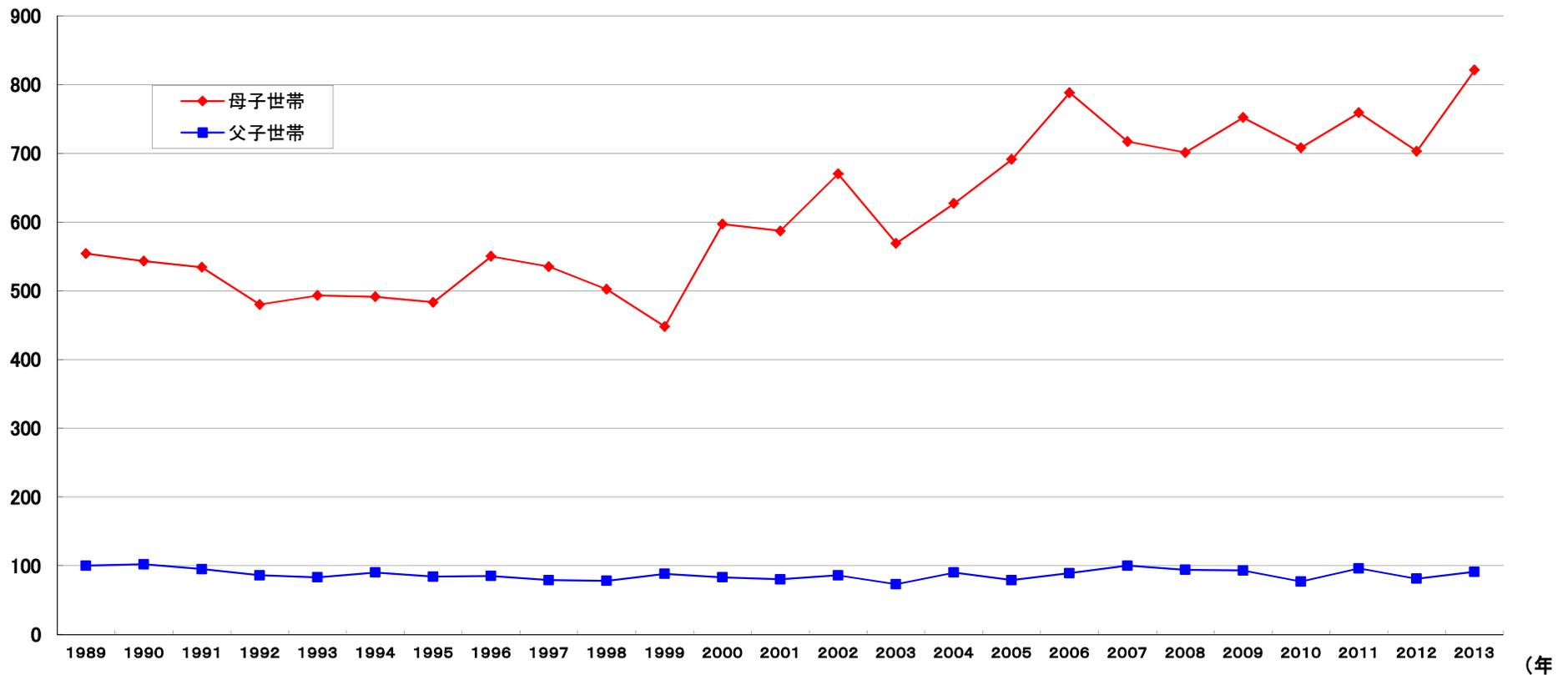
厚生労働省:国民生活基礎調査の概況より

母子世帯・父子世帯数の推移

母子世帯の数は増加傾向。

母子・父子世帯の推移

(千世帯)

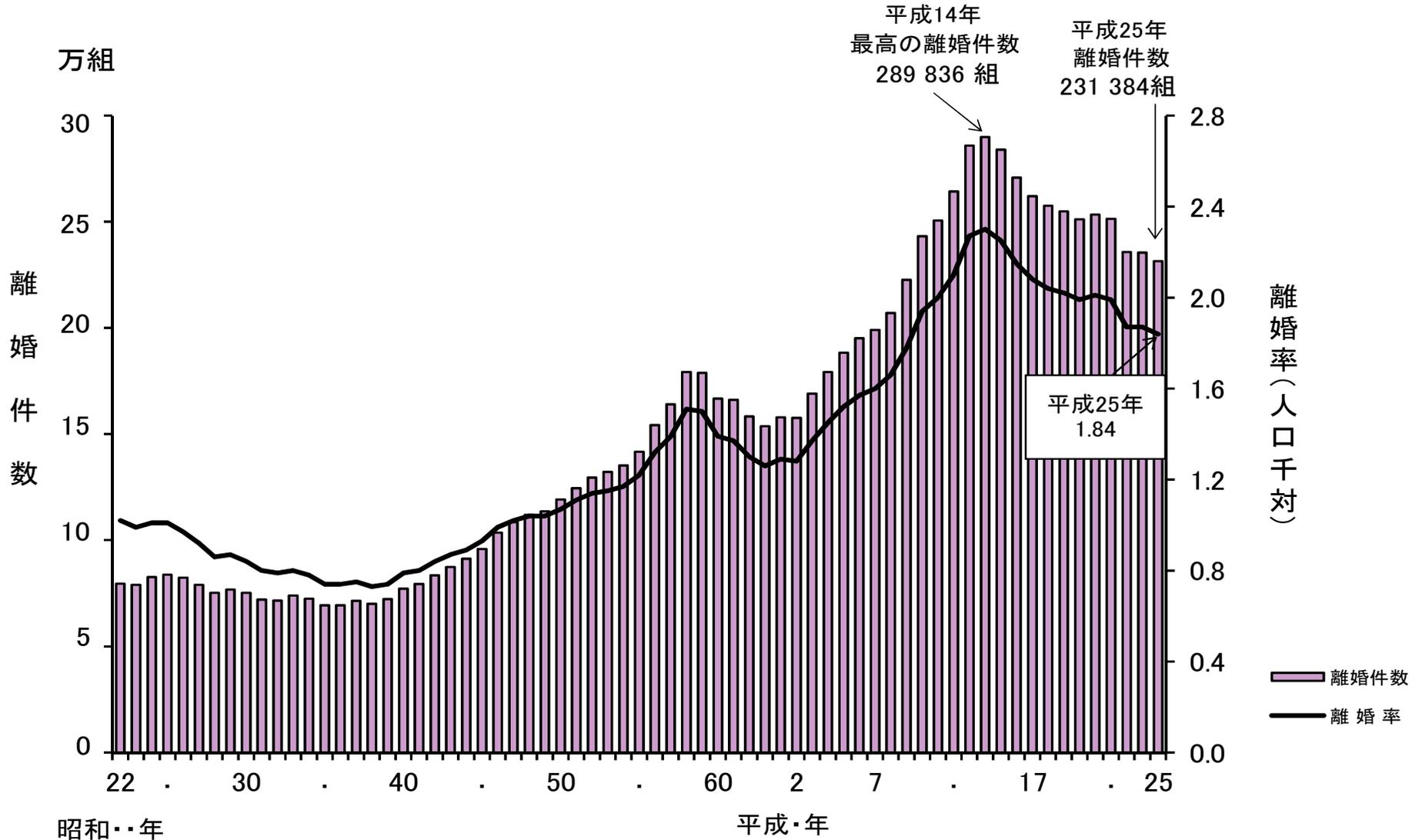


注1: 母子(父子)世帯とは、死別・離別・その他の理由(未婚の場合を含む)で、すでに配偶者のいない65歳未満の女(男)(配偶者が長期間生死不明の場合も含む。)と20歳未満のその子(養子を含む)のみで構成している世帯をいう。

注2: 平成7年の数値は、兵庫県を除いたものである。

離婚件数及び離婚率の年次推移

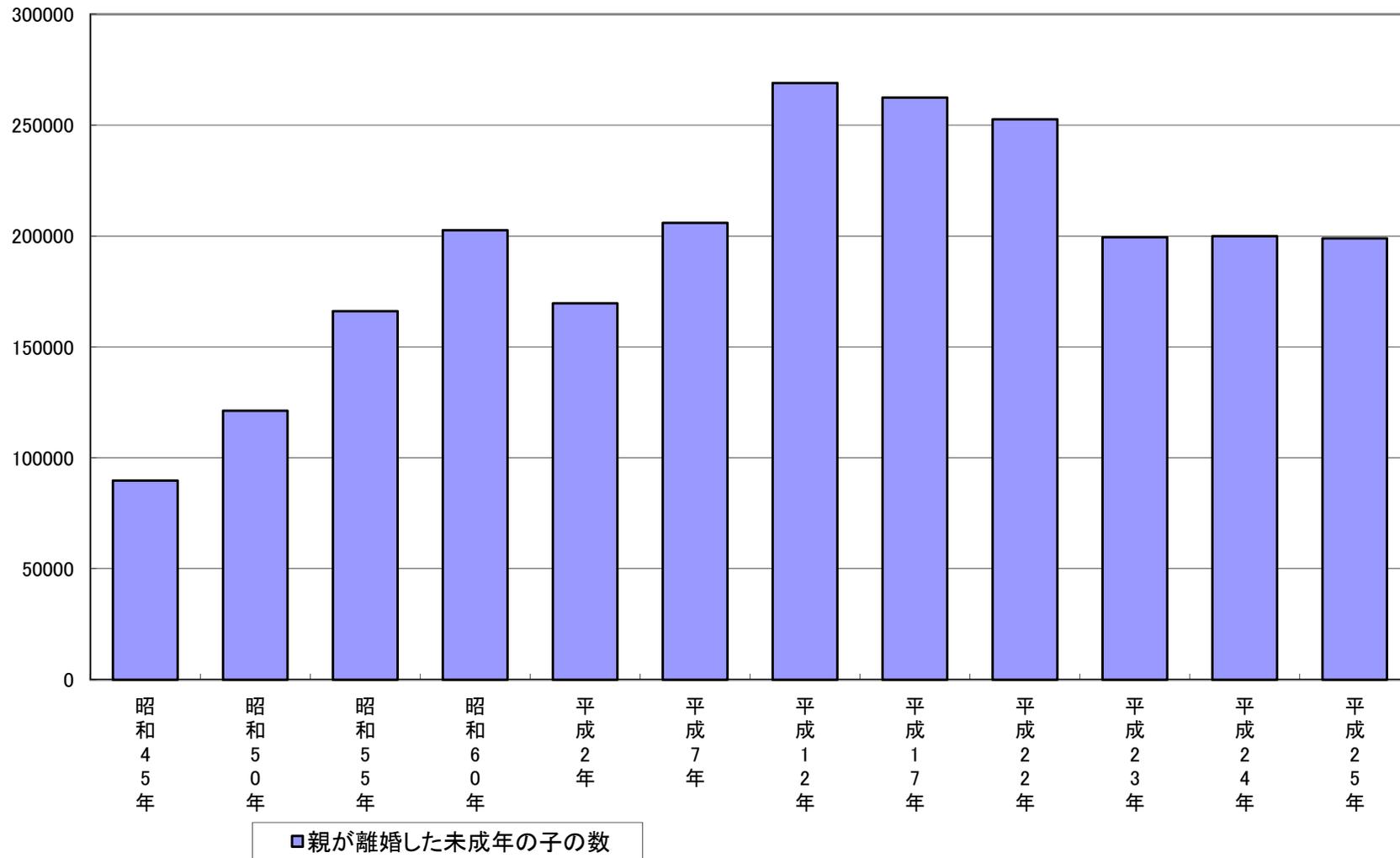
近年は減少傾向にあるものの、離婚件数は依然として20万組を超えている。



厚生労働省:平成25年度人口動態統計月報年計(概数)の概況より

親が離婚した未成年の子の数

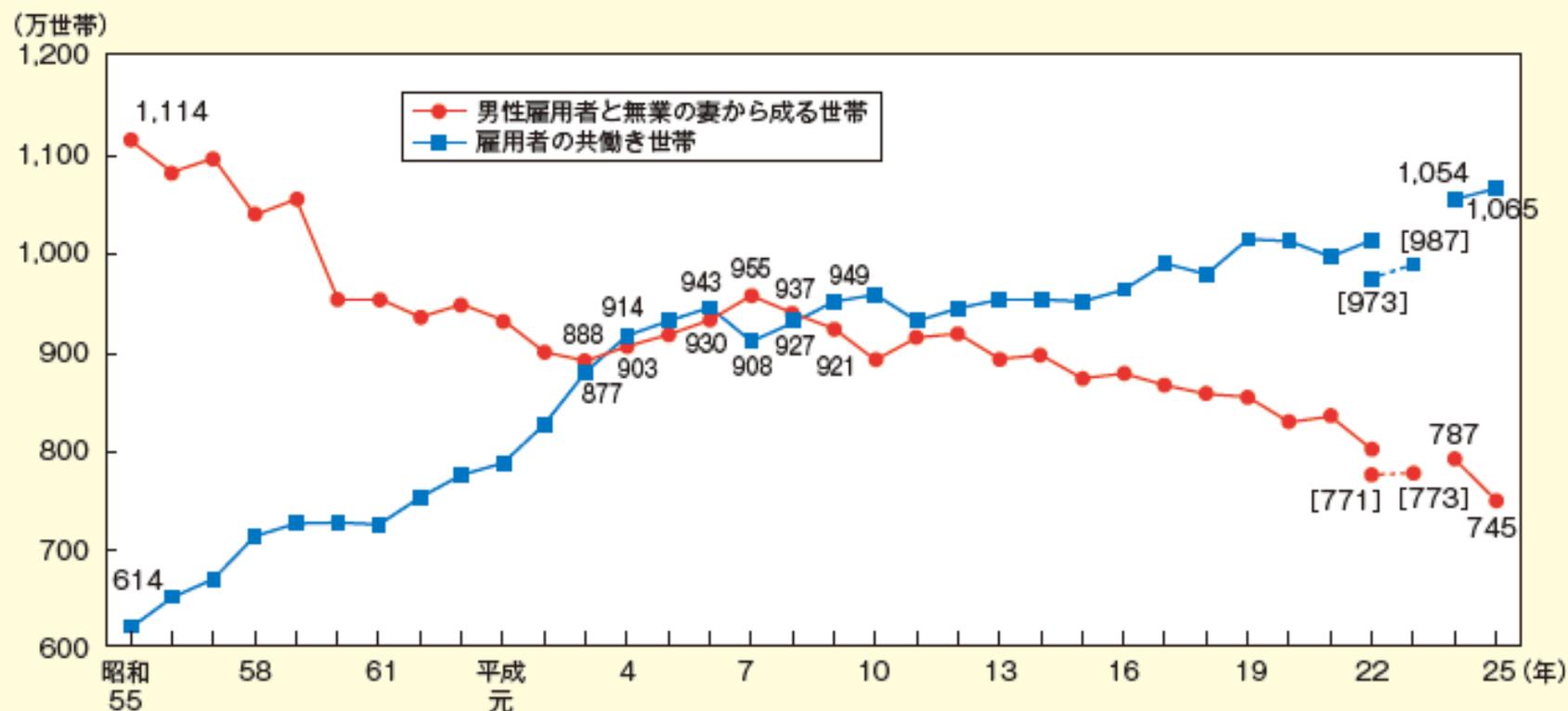
平成25年現在で親が離婚した未成年の子の数は約20万人。



注：未成年の子とは、20歳未満の未婚の子をいう。

共働き世帯の推移

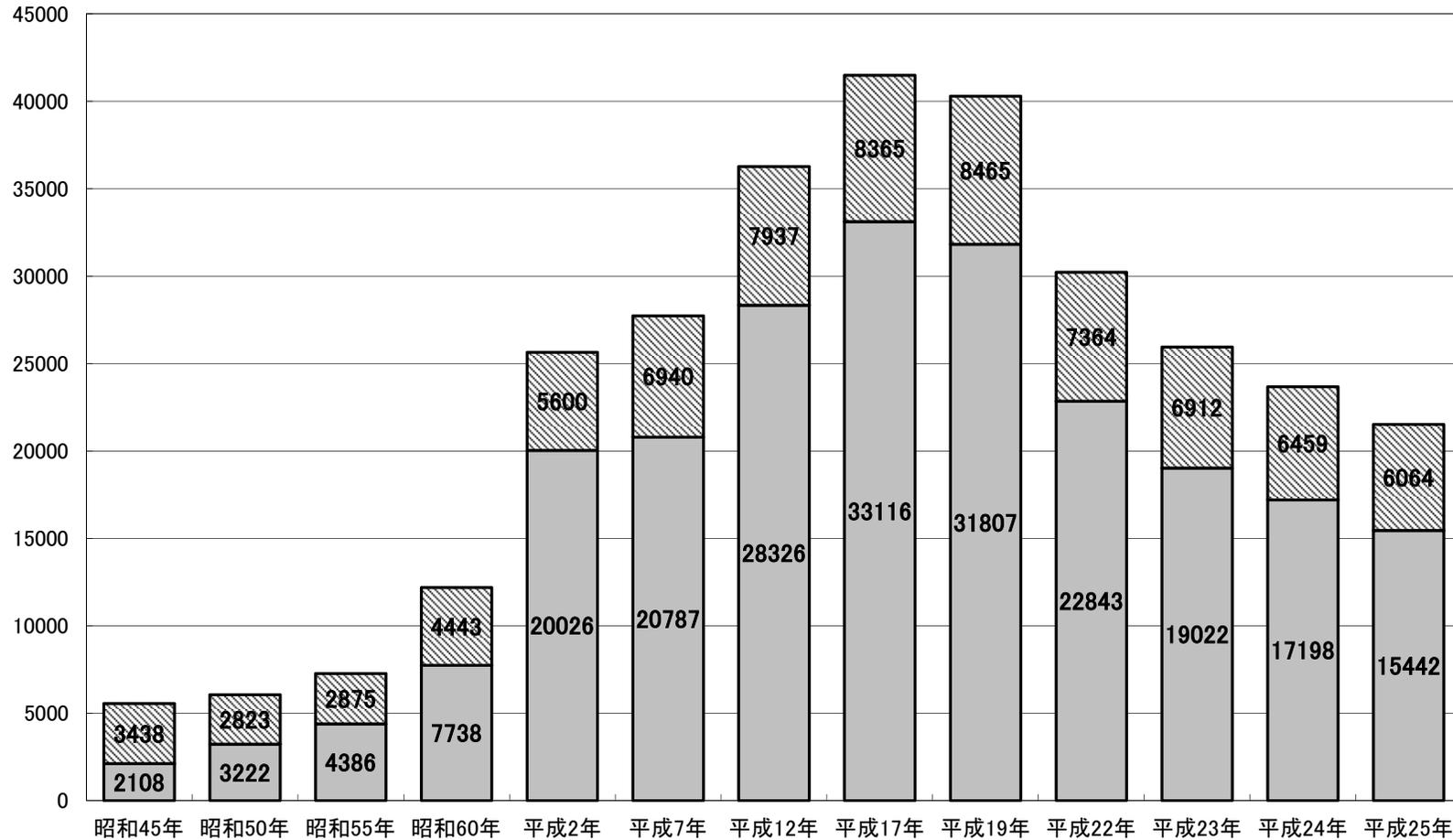
共働き世帯が増加している。



- (備考) 1. 昭和55年から平成13年までは総務庁「労働力調査特別調査」(各年2月。ただし、昭和55年から57年は各年3月)、14年以降は総務省「労働力調査(詳細集計)」(年平均)より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細集計)」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。
2. 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)の世帯。
3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦ともに非農林業雇用者の世帯。
4. 平成22年及び23年の [] 内の実数は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

夫妻の国籍別にみた婚姻件数の年次推移

平成になってから、国際結婚の件数は急増している。

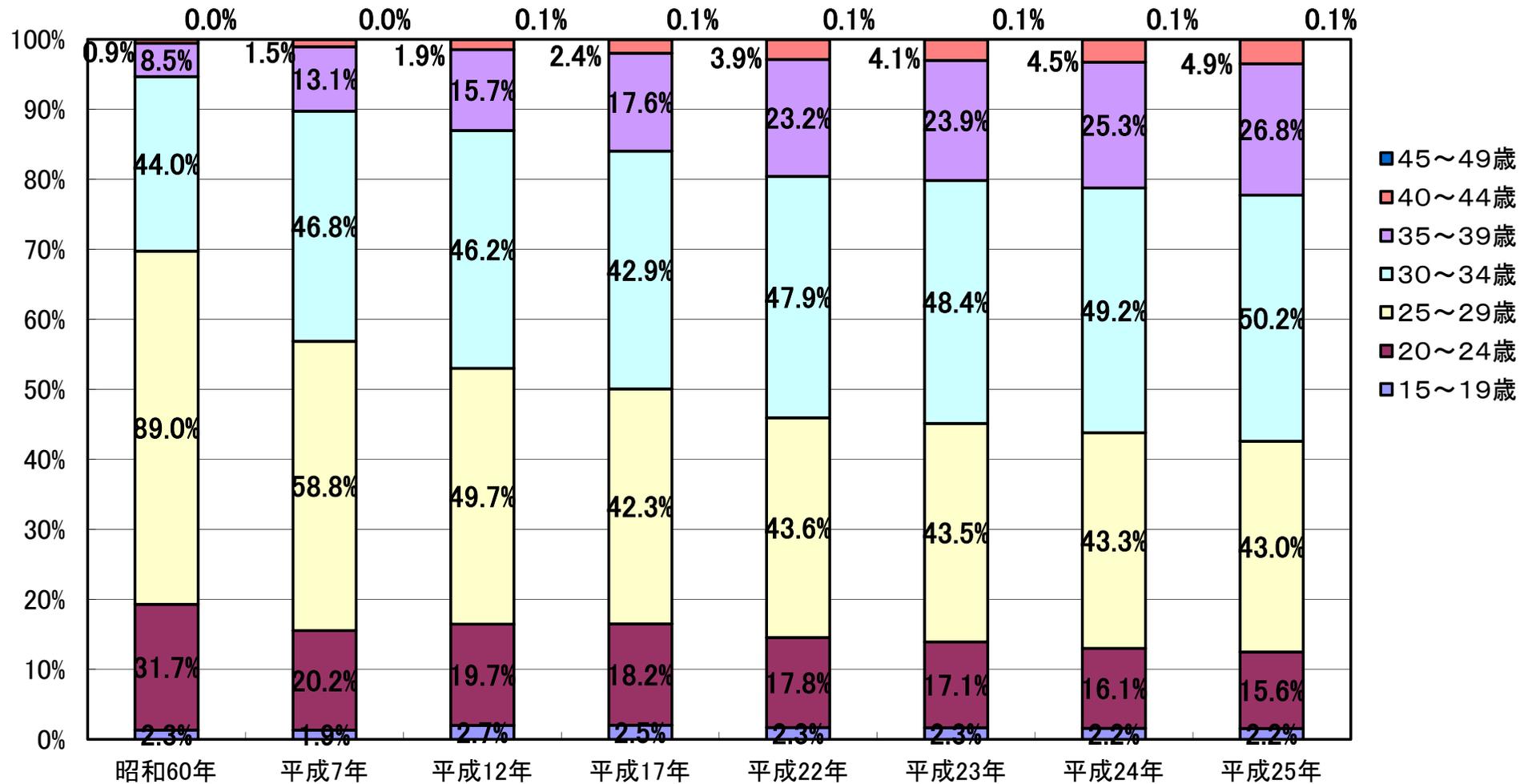


□夫日本・妻外国

▨妻日本・夫外国

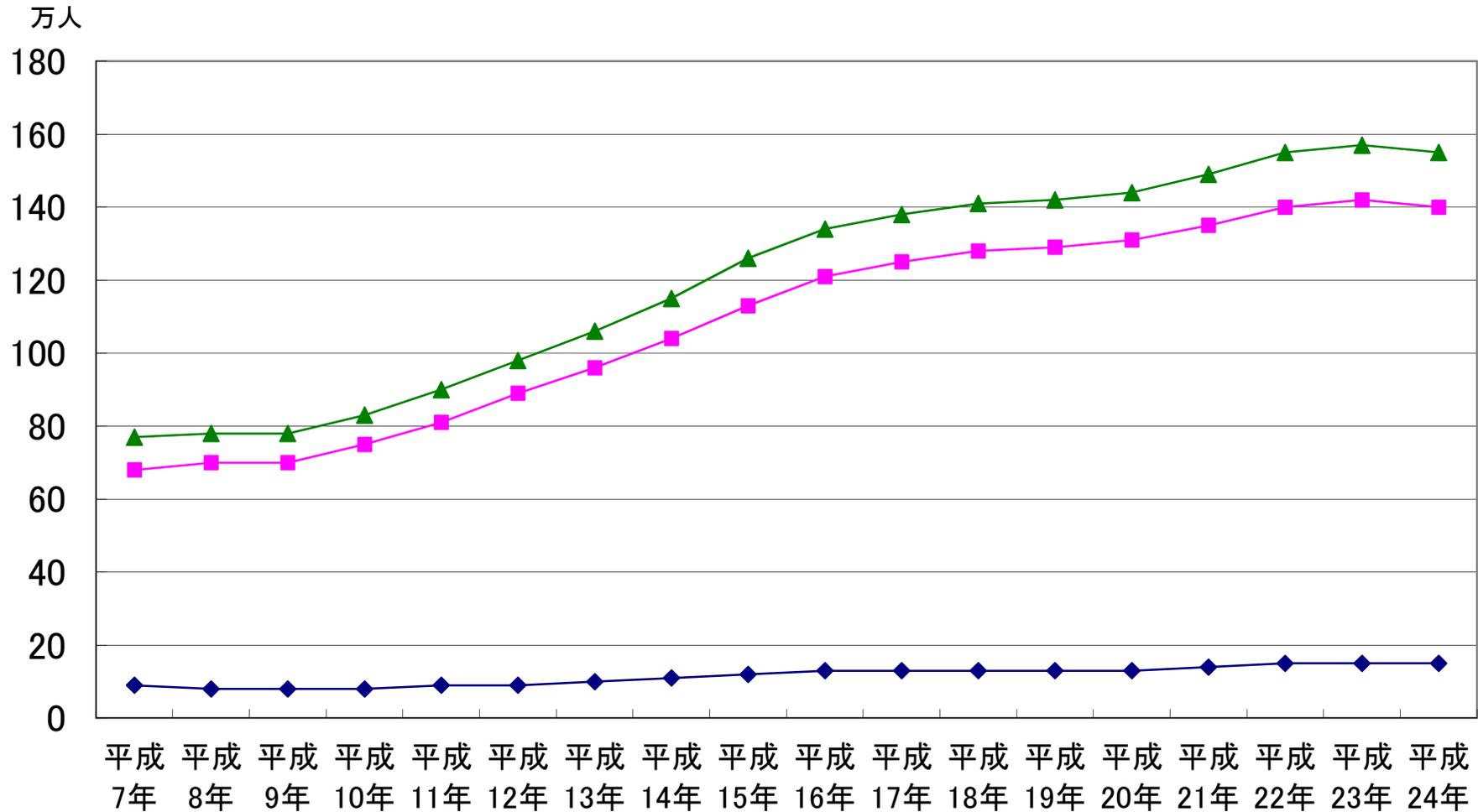
年齢別の特殊出生率の年次推移

30～44歳代の出産が増加している一方、15～19歳の出産も増加している。



要保護及び準要保護児童生徒数の推移

準要保護児童の生徒数は増加している。

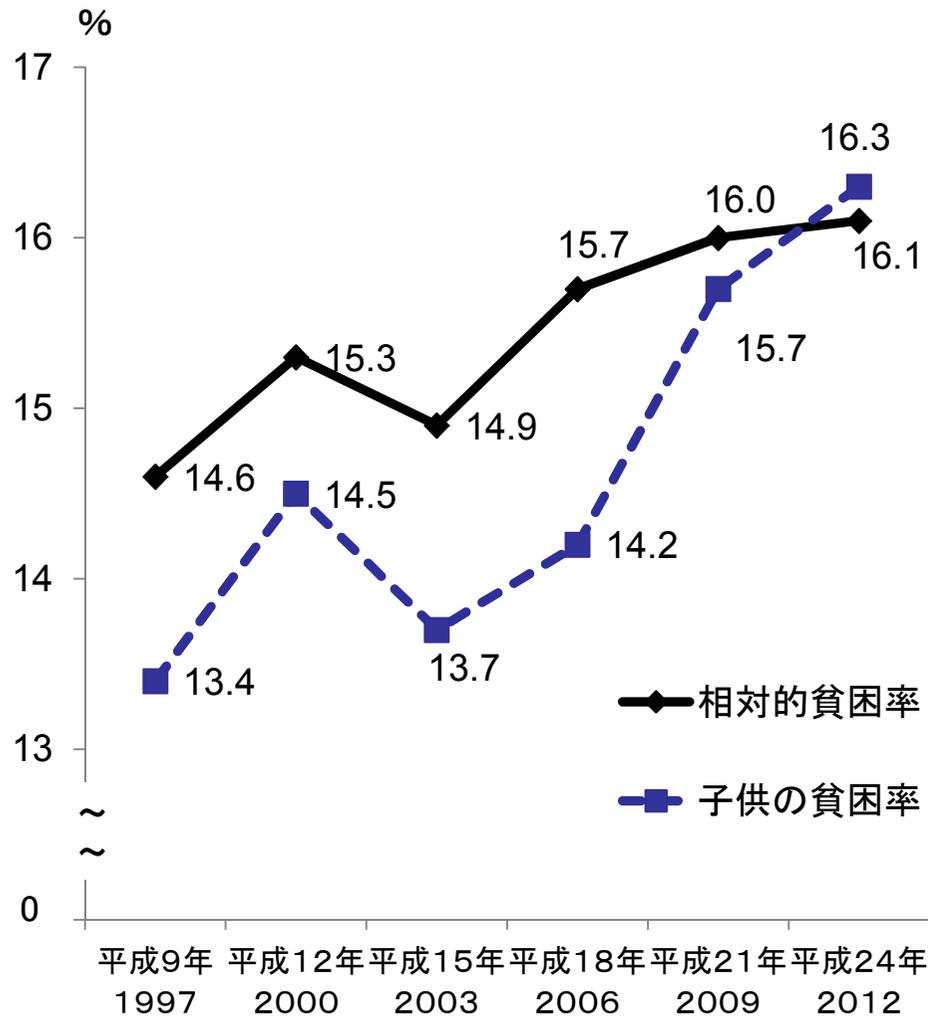


◆ 要保護 ■ 準要保護 ▲ 合計

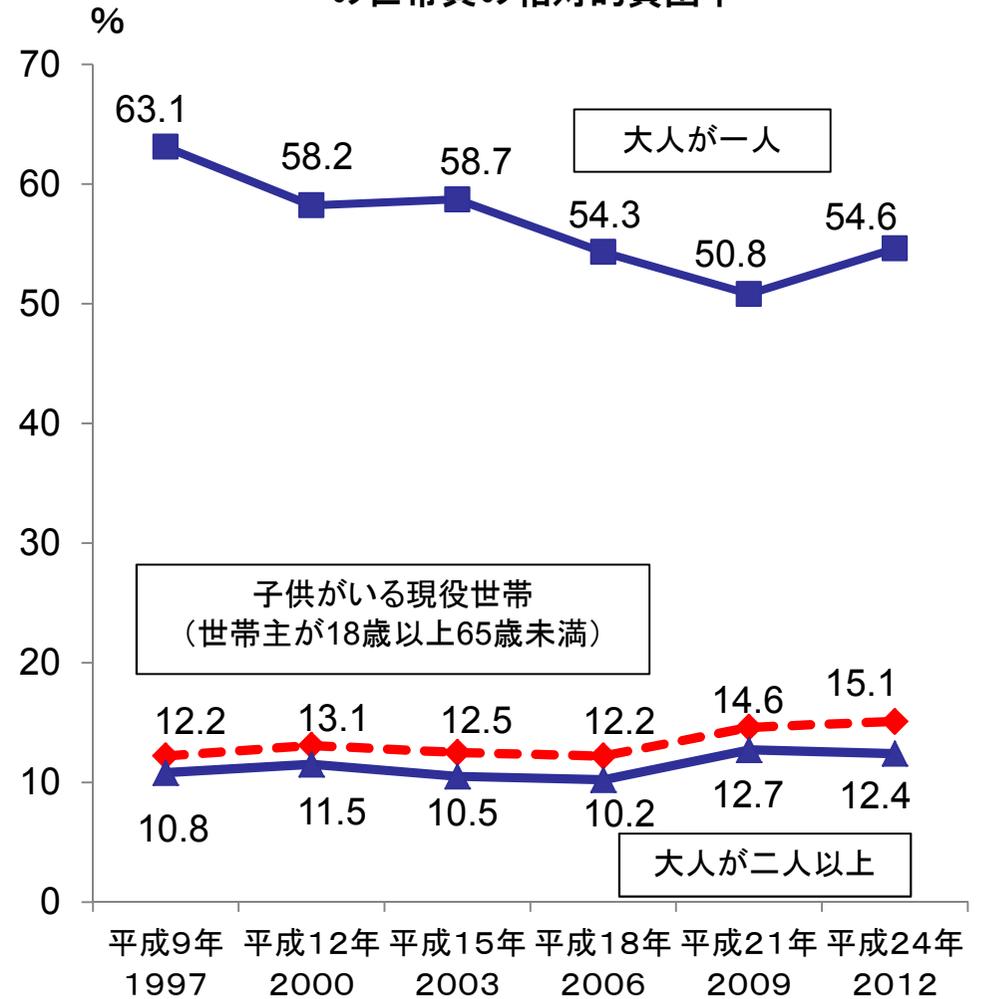
相対的貧困率の年次推移

最新の相対的貧困率は、全体で16.1%、子供で16.3%
一方、大人が一人の「子供がいる現役世帯」で54.6%

相対的貧困率の年次推移



子供がいる現役世帯(世帯主が18歳以上65歳未満)の世帯員の相対的貧困率



厚生労働省:平成25年 国民生活基礎調査より

貧困率の国際比較

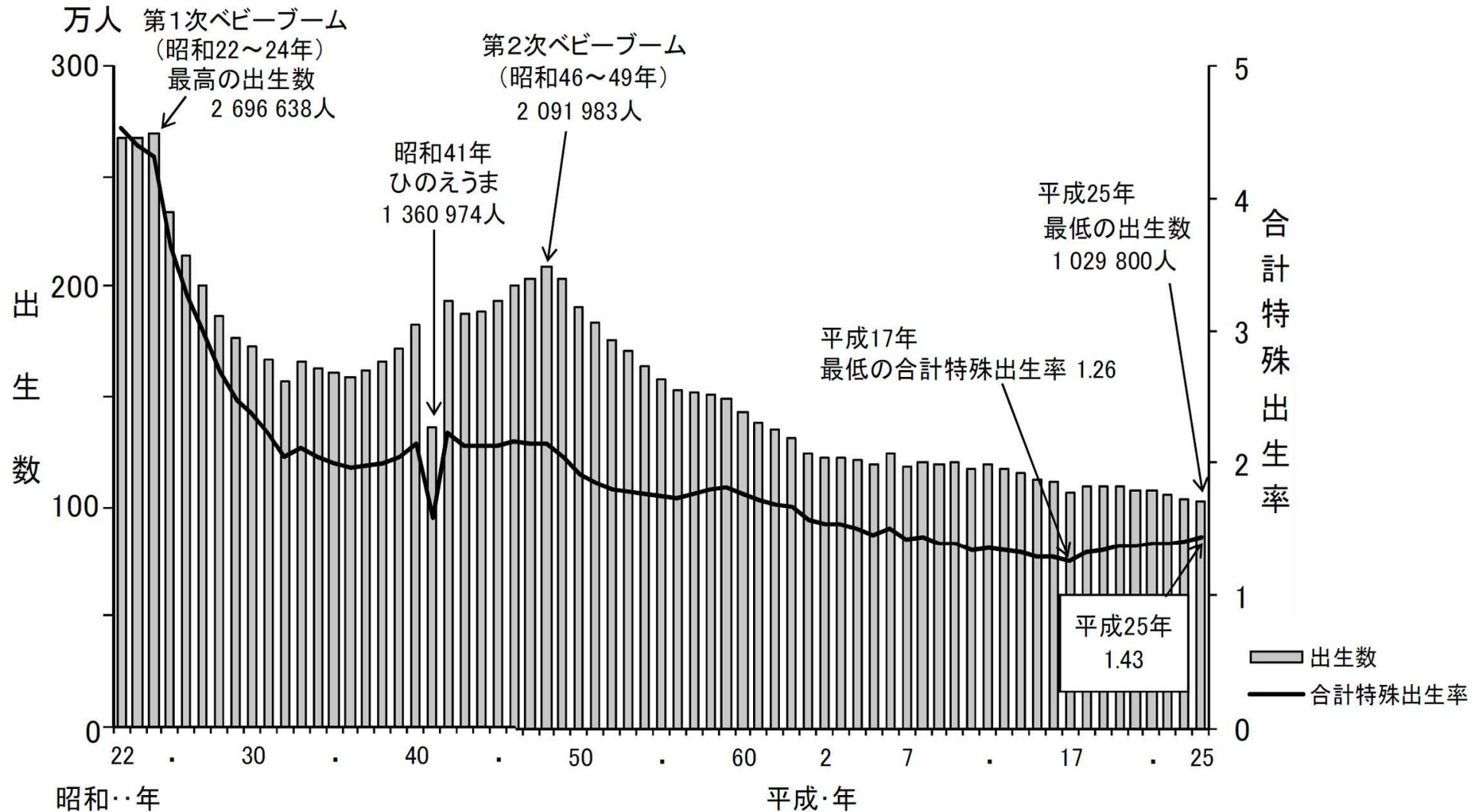
日本の「相対的貧困率」は、OECD34カ国中29位の水準
 「子供の貧困率」は25位だが、大人が一人の「子供がいる世帯」では33位

相対的貧困率			子供の貧困率			子供がいる世帯の相対的貧困率								
順位	国名	割合	順位	国名	割合	合計		大人が一人		大人が二人以上				
						順位	国名	割合	順位	国名	割合	順位	国名	割合
1	チェコ	5.8	1	デンマーク	3.7	1	デンマーク	3.0	1	デンマーク	9.3	1	ドイツ	2.6
2	デンマーク	6.0	2	フィンランド	3.9	2	フィンランド	3.7	2	フィンランド	11.4	1	デンマーク	2.6
3	アイスランド	6.4	3	ノルウェー	5.1	3	ノルウェー	4.4	3	ノルウェー	14.7	3	ノルウェー	2.8
4	ハンガリー	6.8	4	アイスランド	7.1	4	アイスランド	6.3	4	スロヴァキア	15.9	4	フィンランド	3.0
5	ルクセンブルク	7.2	5	オーストリア	8.2	5	オーストリア	6.7	5	イギリス	16.9	5	アイスランド	3.4
6	フィンランド	7.3	5	スウェーデン	8.2	6	スウェーデン	6.9	6	スウェーデン	18.6	6	スウェーデン	4.3
7	ノルウェー	7.5	7	チェコ	9.0	7	ドイツ	7.1	7	アイルランド	19.5	7	オーストリア	5.4
7	オランダ	7.5	8	ドイツ	9.1	8	チェコ	7.6	8	フランス	25.3	7	オランダ	5.4
9	スロヴァキア	7.8	9	スロベニア	9.4	9	オランダ	7.9	8	ポーランド	25.3	9	フランス	5.6
10	フランス	7.9	9	ハンガリー	9.4	10	スロベニア	8.2	10	オーストリア	25.7	10	チェコ	6.0
11	オーストリア	8.1	9	韓国	9.4	11	フランス	8.7	11	アイスランド	27.1	11	スロベニア	6.7
12	ドイツ	8.8	12	イギリス	9.8	11	スイス	8.7	12	ギリシャ	27.3	12	スイス	7.2
13	アイルランド	9.0	12	スイス	9.8	13	ハンガリー	9.0	13	ニュージーランド	28.8	13	ハンガリー	7.5
14	スウェーデン	9.1	14	オランダ	9.9	14	イギリス	9.2	14	ポルトガル	30.9	13	ベルギー	7.5
15	スロベニア	9.2	15	アイルランド	10.2	15	アイルランド	9.7	15	メキシコ	31.3	15	ニュージーランド	7.9
16	スイス	9.5	16	フランス	11.0	16	ルクセンブルク	9.9	15	オランダ	31.3	15	ルクセンブルク	7.9
17	ベルギー	9.7	17	ルクセンブルク	11.4	17	ニュージーランド	10.4	17	スイス	31.6	15	イギリス	7.9
18	イギリス	9.9	18	スロヴァキア	12.1	18	ベルギー	10.5	18	エストニア	31.9	18	アイルランド	8.3
19	ニュージーランド	10.3	19	エストニア	12.4	19	スロヴァキア	10.9	19	ハンガリー	32.7	19	オーストラリア	8.6
20	ポーランド	11.0	20	ベルギー	12.8	20	エストニア	11.4	20	チェコ	33.2	20	カナダ	9.3
21	ポルトガル	11.4	21	ニュージーランド	13.3	21	カナダ	11.9	21	スロベニア	33.4	21	エストニア	9.7
22	エストニア	11.7	22	ポーランド	13.6	22	ポーランド	12.1	22	ドイツ	34.0	22	スロヴァキア	10.7
23	カナダ	11.9	23	カナダ	14.0	23	オーストラリア	12.5	23	ベルギー	34.3	23	ポーランド	11.8
24	イタリア	13.0	24	オーストラリア	15.1	24	ポルトガル	14.2	24	イタリア	35.2	24	日本	12.7
25	ギリシャ	14.3	25	日本	15.7	25	日本	14.6	25	トルコ	38.2	25	ポルトガル	13.1
26	オーストラリア	14.5	26	ポルトガル	16.2	26	ギリシャ	15.8	26	スペイン	38.8	26	アメリカ	15.2
27	韓国	14.9	27	ギリシャ	17.7	27	イタリア	16.6	27	カナダ	39.8	26	ギリシャ	15.2
28	スペイン	15.4	28	イタリア	17.8	28	アメリカ	18.6	28	ルクセンブルク	44.2	28	イタリア	15.4
29	日本	16.0	29	スペイン	20.5	29	スペイン	18.9	29	オーストラリア	44.9	29	チリ	17.9
30	アメリカ	17.4	30	アメリカ	21.2	30	チリ	20.5	30	アメリカ	45.0	30	スペイン	18.2
31	チリ	18.0	31	チリ	23.9	31	メキシコ	21.5	31	イスラエル	47.7	31	メキシコ	21.0
32	トルコ	19.3	32	メキシコ	24.5	32	トルコ	22.9	32	チリ	49.0	32	トルコ	22.6
33	メキシコ	20.4	33	トルコ	27.5	33	イスラエル	24.3	33	日本	50.8	33	イスラエル	23.3
34	イスラエル	20.9	34	イスラエル	28.5	—	韓国	—	—	韓国	—	—	韓国	—
OECD平均		11.3	OECD平均		13.3	OECD平均		11.6	OECD平均		31.0	OECD平均		9.9

(出所)OECD (2014) Family database"Child poverty"、ハンガリー、アイルランド、日本、ニュージーランド、スイス、トルコの数値は2009年、チリの数値は2011年

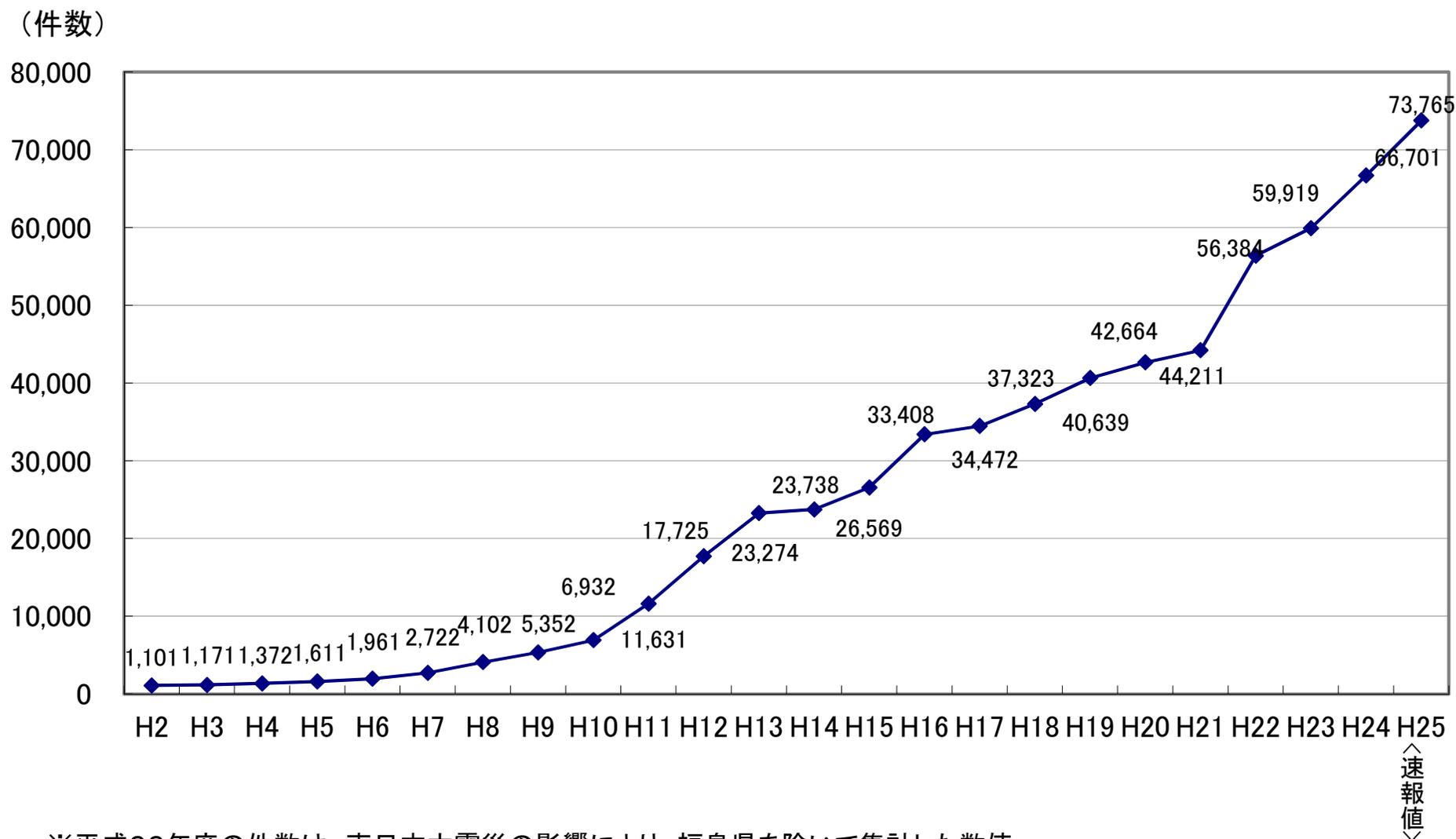
2. 社会問題

出生数及び合計特殊出生率の年次推移



厚生労働省「平成25年人口動態統計月報年計(概数)の概況」より

児童相談所における児童虐待相談対応件数の年次推移



※平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

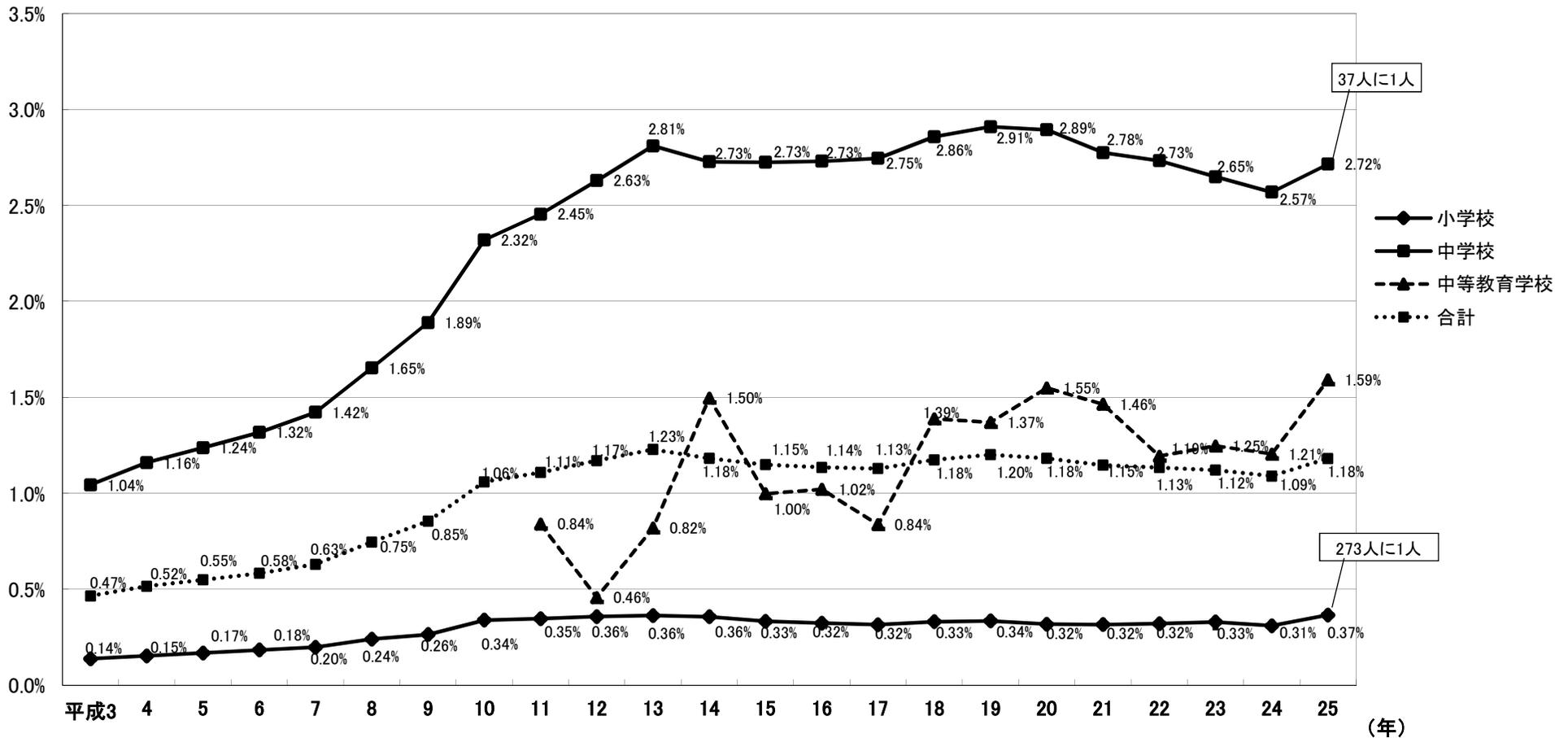
(厚生労働省資料をもとに作成)

全児童，生徒数に占める「不登校」の比率

小学生の約273人に1人、中学生の約37人に1人が不登校。

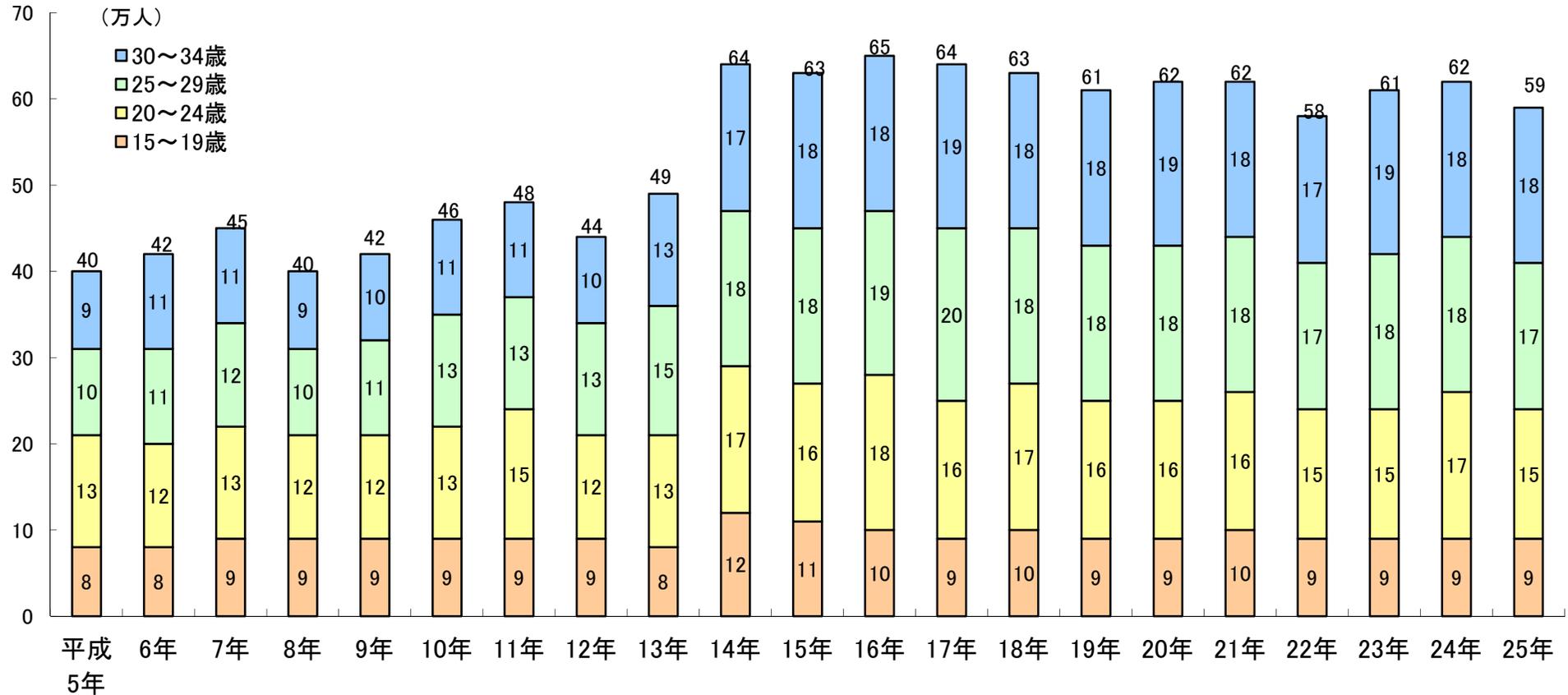
全児童、生徒数に占める「不登校」の比率

不登校率(%)



ニート状態の若者の推移

ニート(※)の状態にある若者は、20年間で40万人から62万人に増加しています。
25～29歳と30～34歳の年齢層は、それぞれ20年前に比べて倍増しています。



(注) 1 若年無業者について、年齢を15～34歳に限定し、非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者として集計。

「ニート(NEET)」とは Not in Education, Employment or Training(就学、就労、職業訓練のいずれも行っていない若者)の略で、元々はイギリスの労働政策において出てきた用語。日本では、若年無業者のことをいっています。若年無業者とは、「15～34歳の非労働力人口のうち、通学、家事を行っていない者」をいいます。

総務省:労働力調査を元に作成

ひきこもり群の推計数

狭義のひきこもりは23.6万人。(広義のひきこもりは69.6万人)

	有効回収率に 占める割合 (%)	全国の推計数 (万人) (注1)	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	1.19	46.0	準ひきこもり 46.0万人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	0.40	15.3	
自室からは出るが、家からは出ない	0.09	3.5	狭義のひきこもり 23.6万人 (注2)
自室からほとんど出ない	0.12	4.7	
計	1.79	69.6	広義のひきこもり 69.6万人

ただし ア)現在の状態となって6ヶ月以上の者のみ
 イ)「現在の状態のきっかけ」で、「病気(病名:)」に統合失調症又は身体的な病気、
 又は「その他()」に自宅で仕事をしていると回答した者 を除く
 ウ)「ふだん自宅にいるときによくしていること」で、「家事・育児をする」と回答した者 を除く

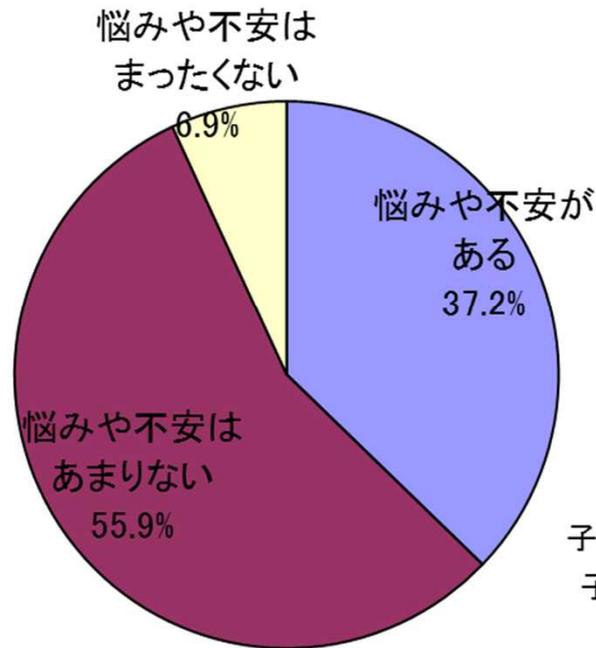
(注1)総務省「人口推計」(2009年)によると、15~39歳人口は3,880万人より、
 有効回収率に占める割合(%)×3,880万人=全国の推計数(万人)

(注2)厚生労働省の新ガイドラインにおけるひきこもりの推計値は25.5万世帯となっており、ほぼ一致する。

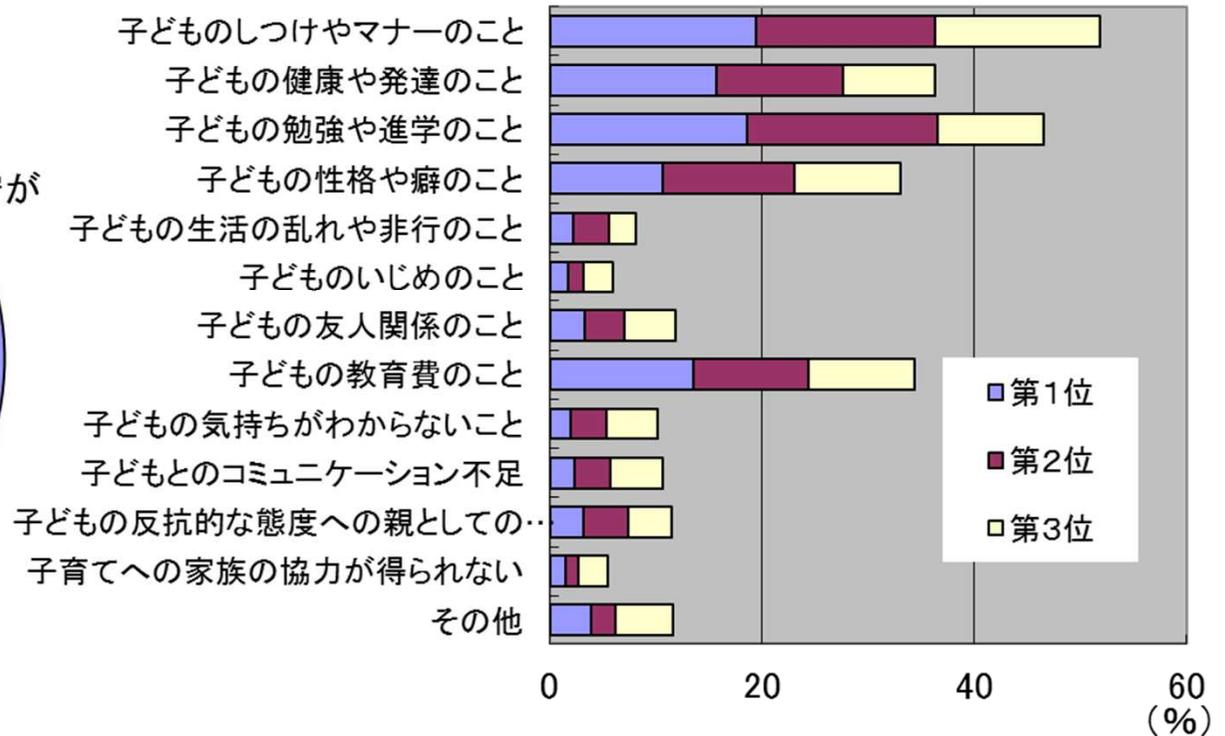
子育てについての悩みや不安

保護者の4割が悩みや不安を抱えている。

子育てに不安はあるか



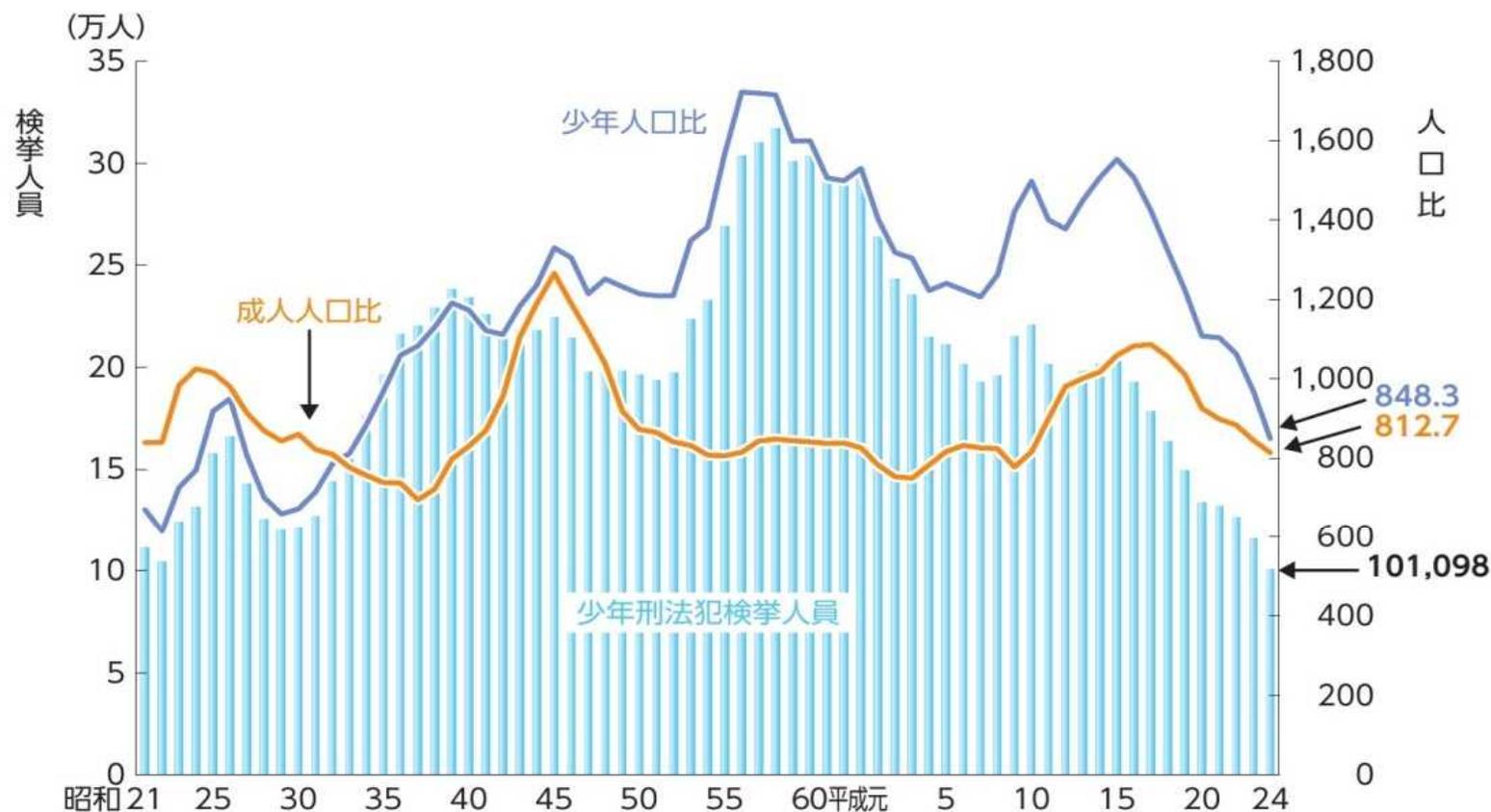
悩みや不安が大きいものから順番に3位まで選択



文部科学省委託調査:家庭教育の活性化支援等に関する特別調査研究(平成20年)

少年による刑法犯検挙人員・人口比の推移

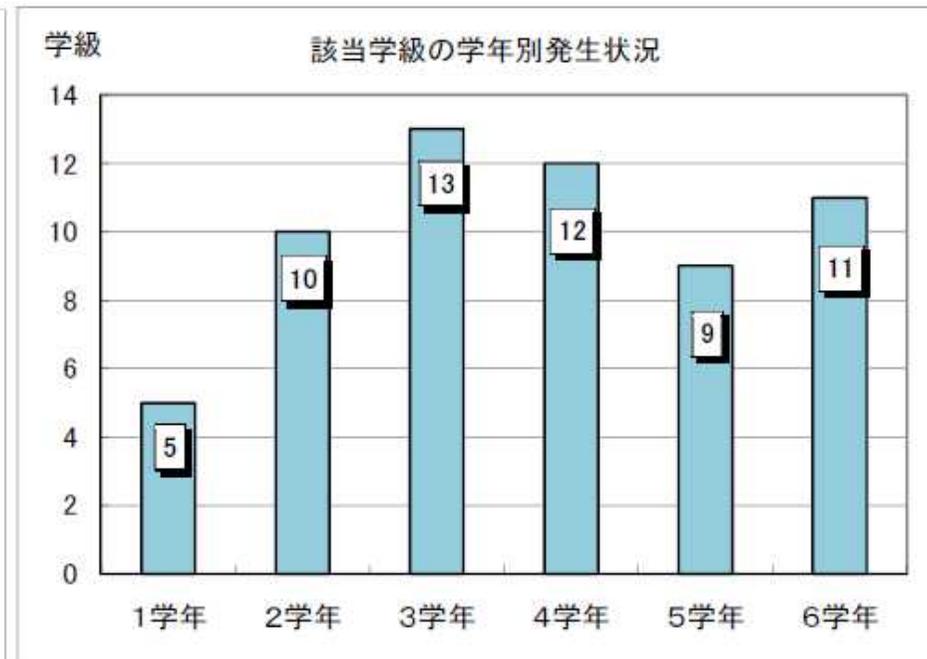
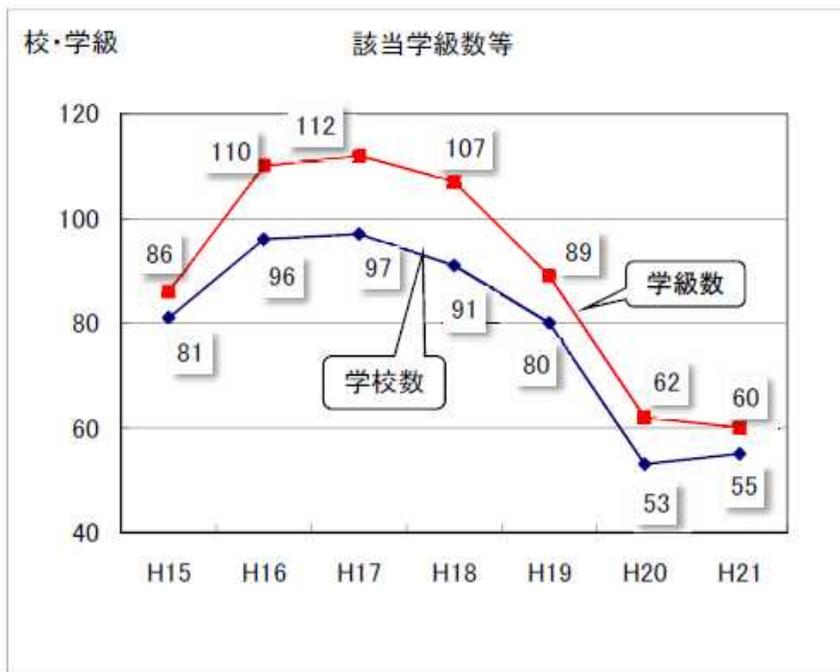
近年は減少傾向にあり、平成21年は 13万2,594人(前年比1.4%減)であった。



- 注 1 警察庁の統計、警察庁交通局の資料及び総務省統計局の人口資料による。
2 犯行時の年齢による。ただし、検挙時に20歳以上であった者は、成人として計上している。
3 触法少年の補導人員を含む。
4 昭和45年以降は、自動車運転過失致死傷等による触法少年を除く。
5 「少年人口比」は、10歳以上の少年10万人当たりの、「成人人口比」は、成人10万人当たりの、それぞれ刑法犯・一般刑法犯検挙人員である。

「学級がうまく機能しない状況」に関する調査（埼玉県）

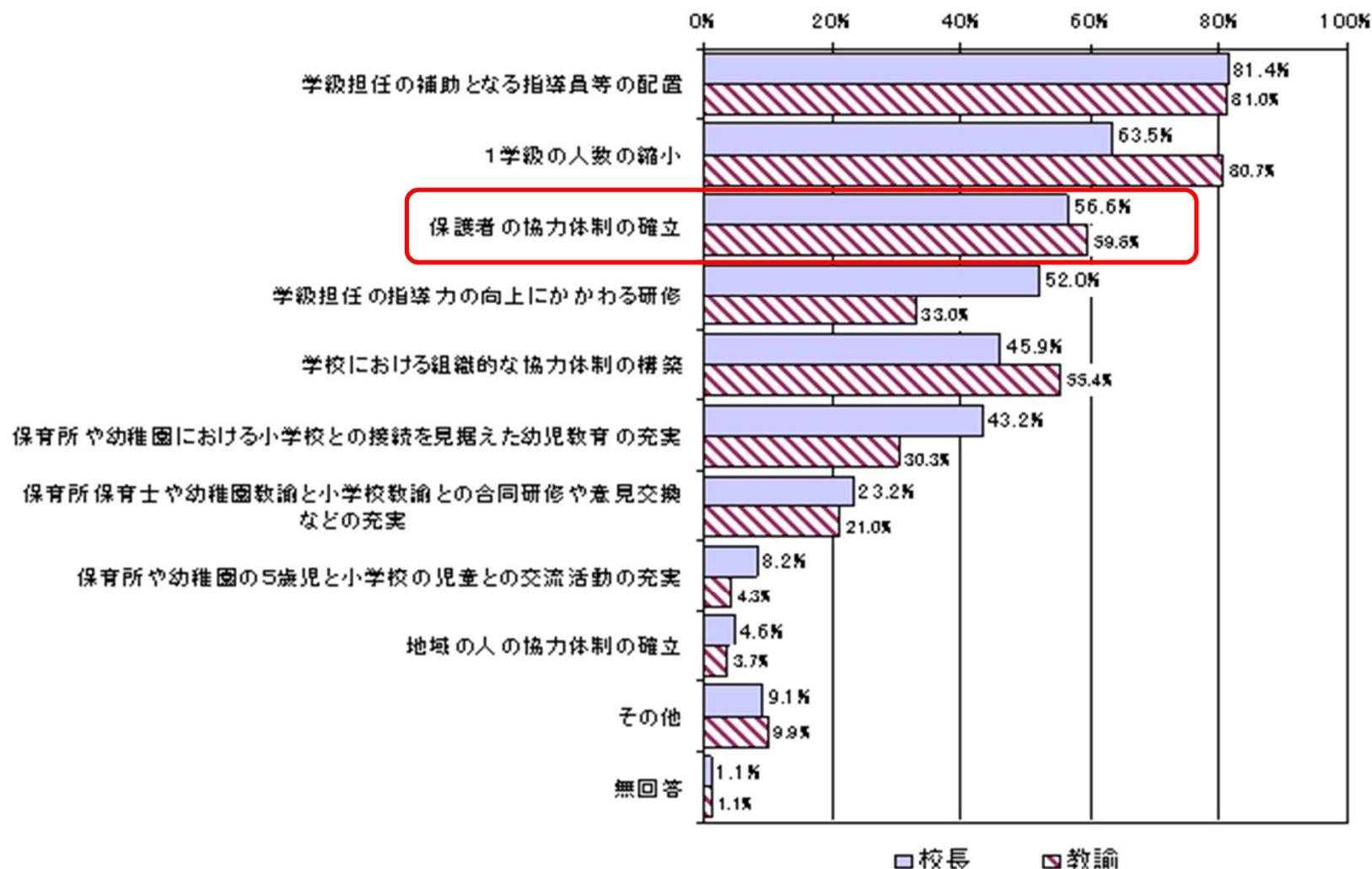
学級がうまく機能しない状況は、減少傾向にある。



※調査対象は818校

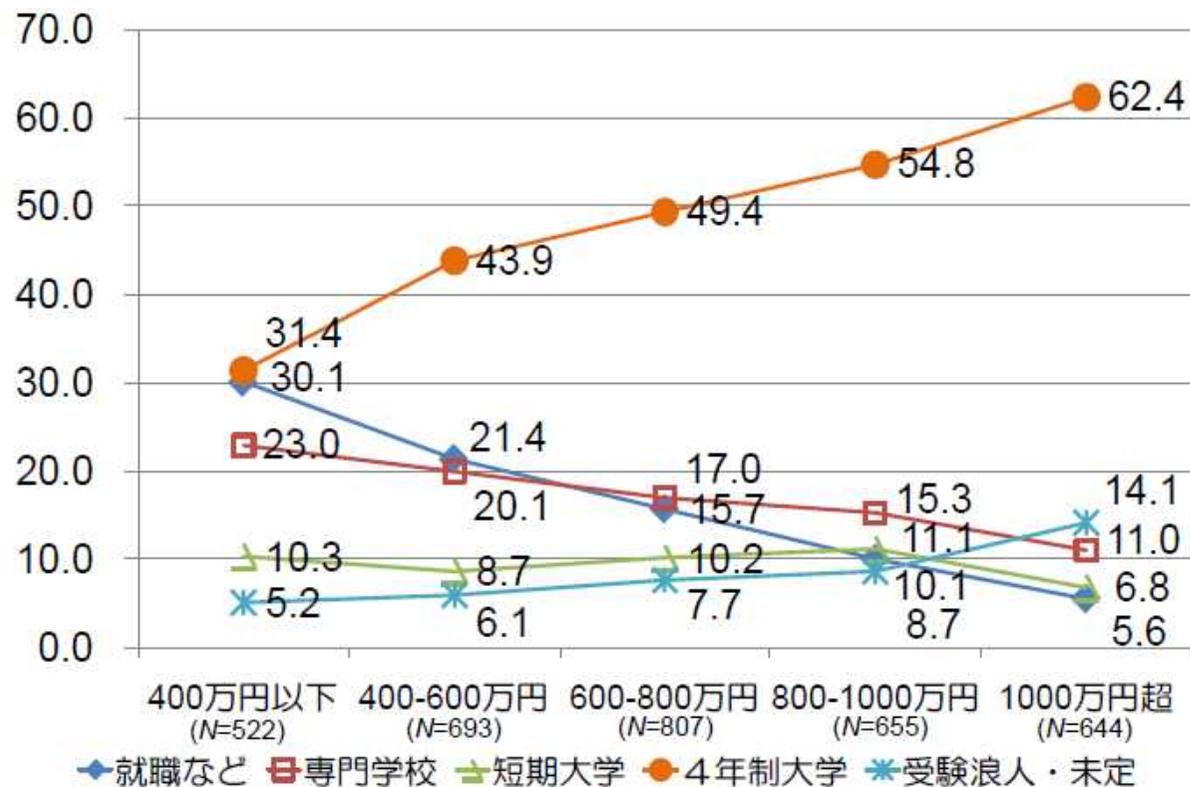
小1児童の不適応状況の発生予防に効果的な対応策

約半数以上の校長・教諭が、「保護者の協力体制の確立」と回答している。



両親年収別の高校卒業後の進路（所得階級5区分）

大学進学率は、両親の年収と高い相関関係がある。



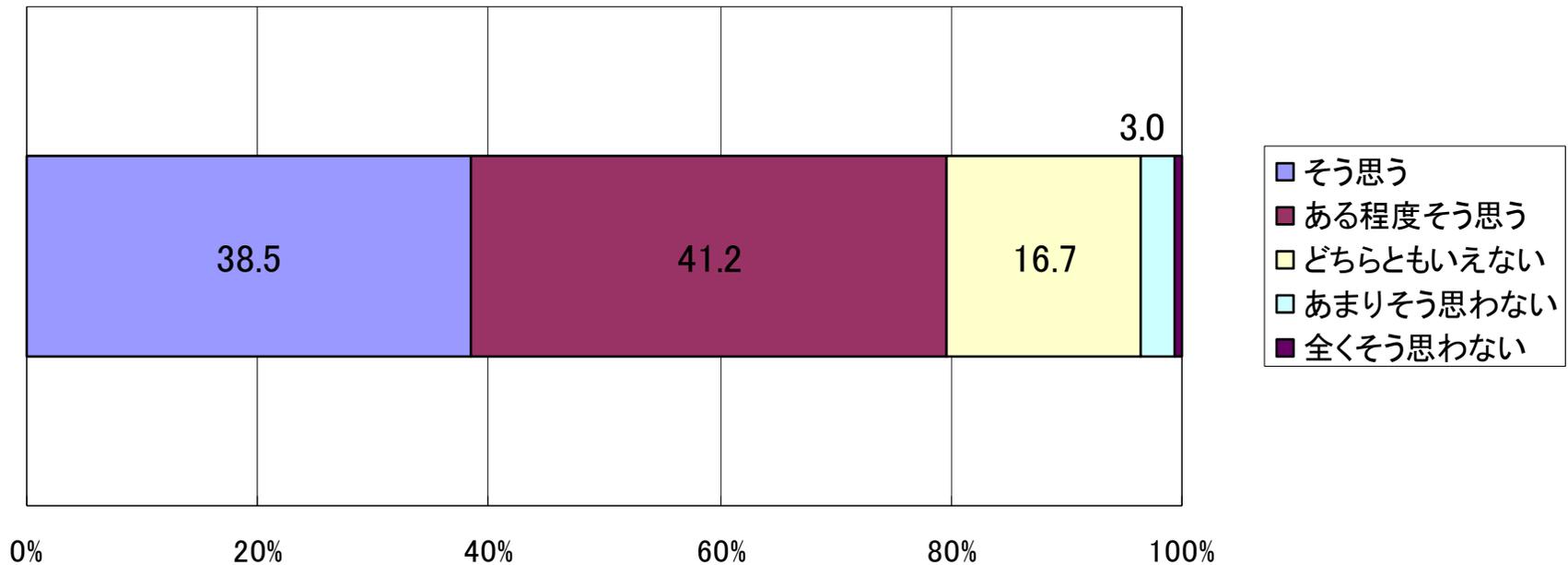
「両親年収」は「保護者調査」(2005年11月)問25を用い、父母それぞれの税込み年収に中央値をわりあて(例えば、「500～700万円未満」なら600万円)、合計したものを元としている。無回答は欠損値として扱った。ただし、父親(または母親)の年齢・職業・学歴・年収のすべてが無回答という回答者については「父親(または母親)がいない」とみなし、父親(または母親)の年収はゼロ円とした。

3. 学校・家庭・地域の教育力

家庭の教育力に関する意識

約8割の親が家庭の教育力が低下していると実感

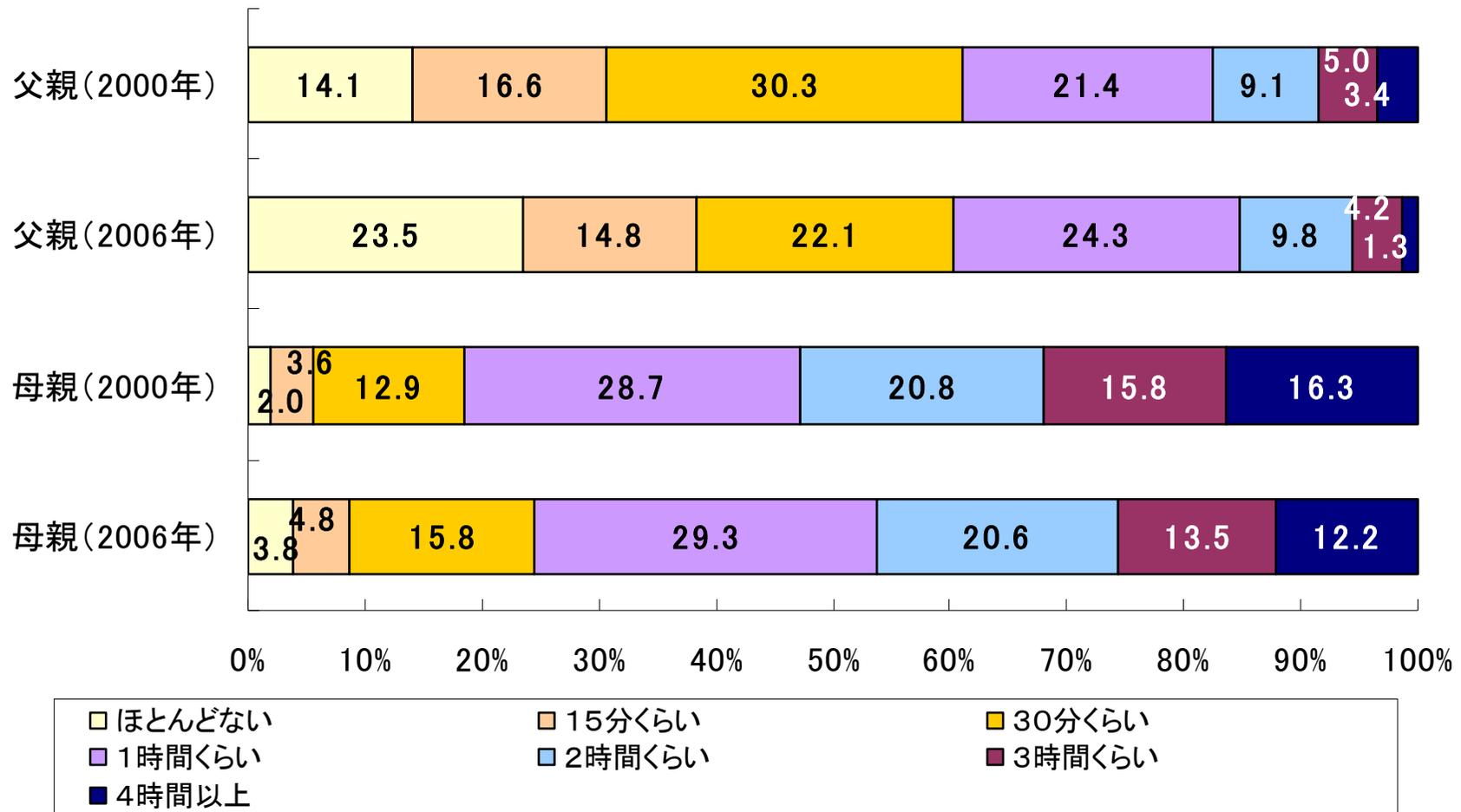
問 あなたは、世の中全般に家庭の教育力が低下していると思いますか。



出典 文部科学省委託調査「家庭教育の活性化支援等に関する特別調査研究」(平成20年度)
調査対象:0歳~18歳の子どもを持つ20歳~54歳の父母3,000人

平日に親が子どもと接する時間の割合

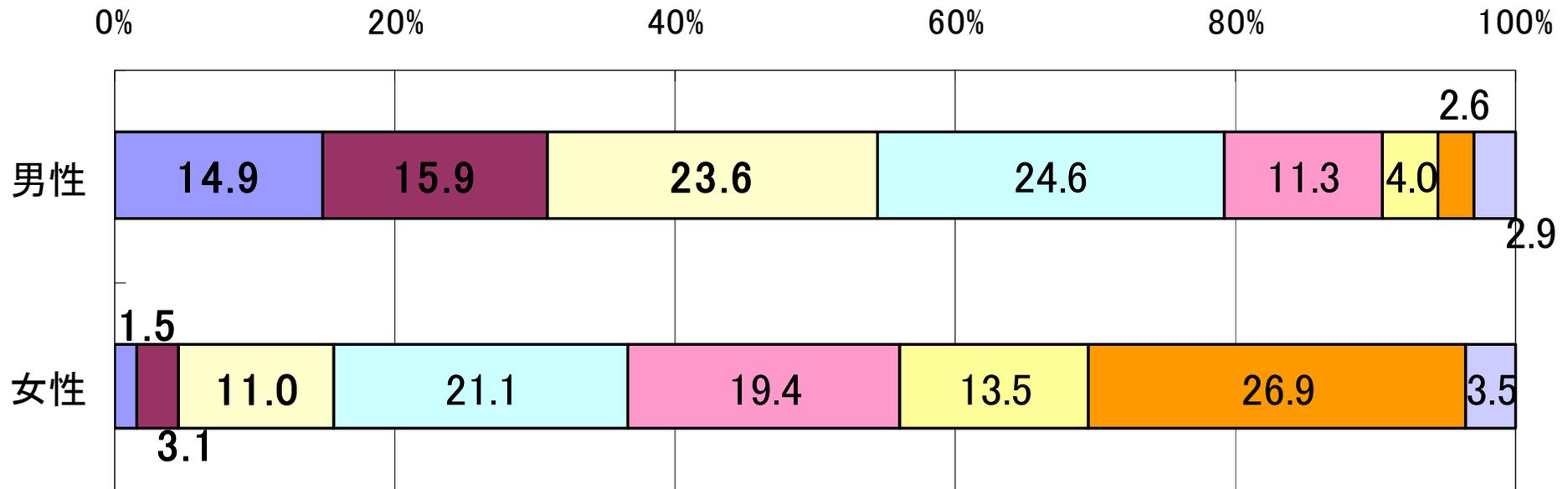
母親と子どもと接する時間が減り、
父親と子どもの接する時間は、「ほとんどない」という割合が増加



平日に親が子どもと接する時間の割合

父親と子どもの接する時間が30分以下の割合が5割以上

平日に子どもとコミュニケーション等を取っている時間の平均(男女別)

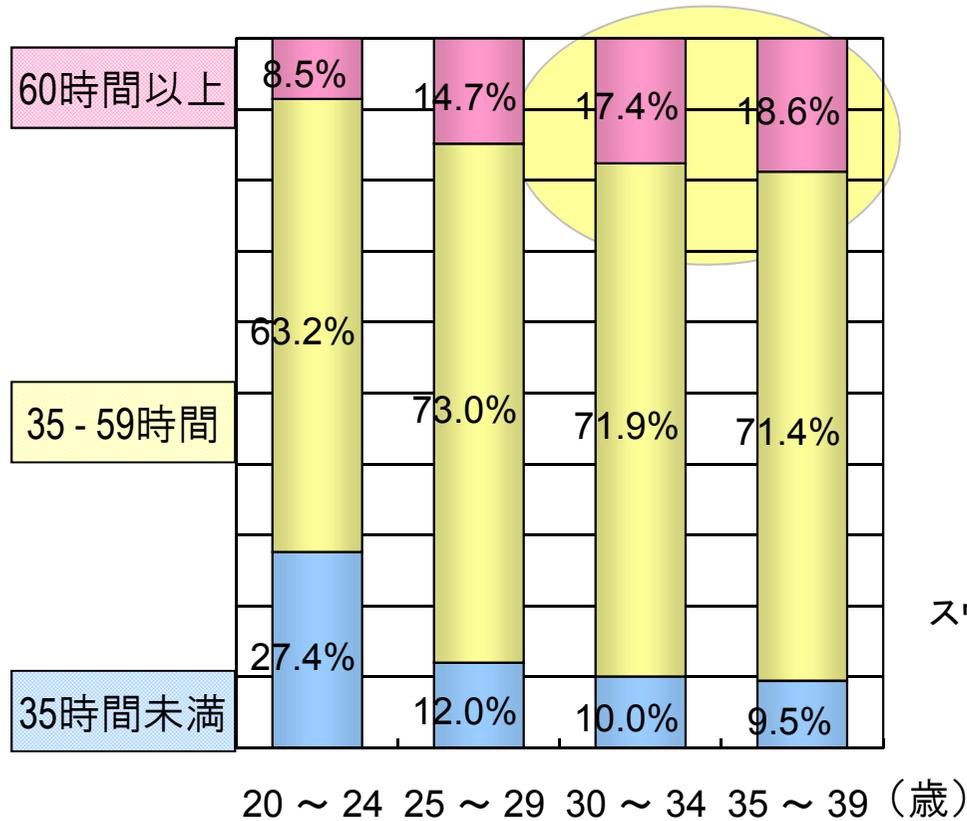


■ほとんどない ■15分ぐらい ■30分ぐらい ■1時間ぐらい ■2時間ぐらい
■3時間ぐらい ■それ以上 ■わからない

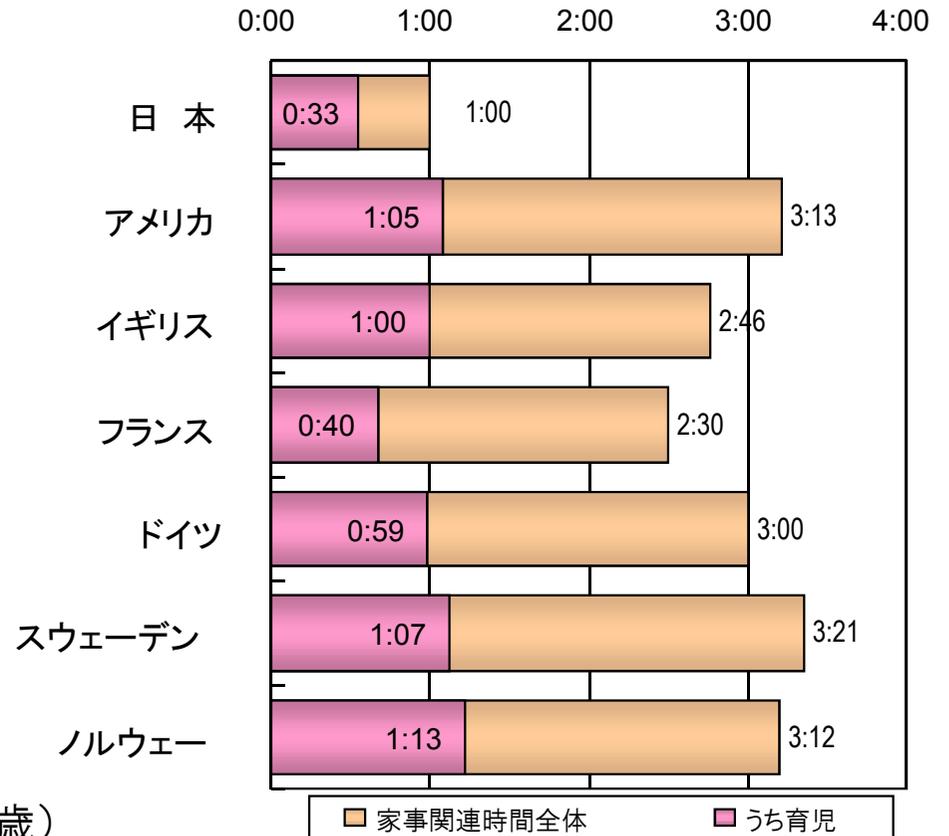
男性の子育て・育児時間

男性の家事・育児に費やす時間は世界的にみても最も低い水準。
子育て期にある30歳代男性の約5人に1人は週60時間以上就業。

男性就業者の1週間の就業時間



男性の家事・育児時間

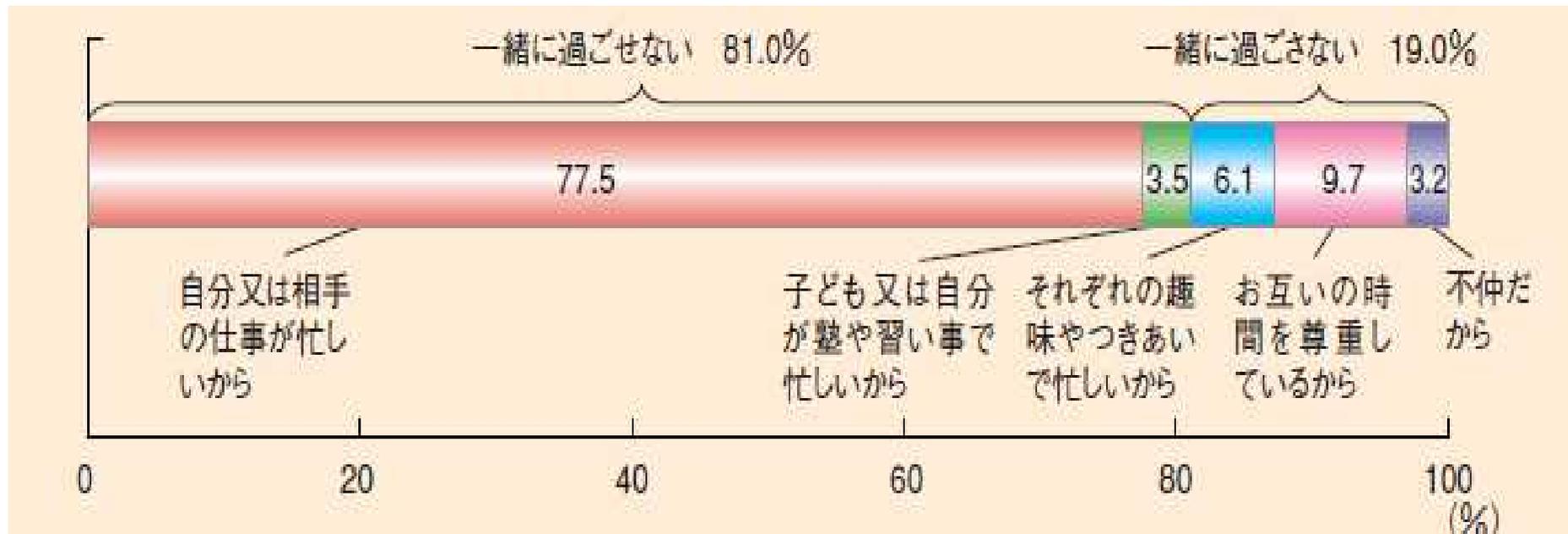


※6歳未満児を持つ男性

Eurostat : How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men (2004)
Bureau of Labor Statistics of the U.S. : America Time-Use Survey Summary (2006)
総務省 : 総務省 : 労働力調査 (平成21年) 社会生活基本調査 (平成18年)

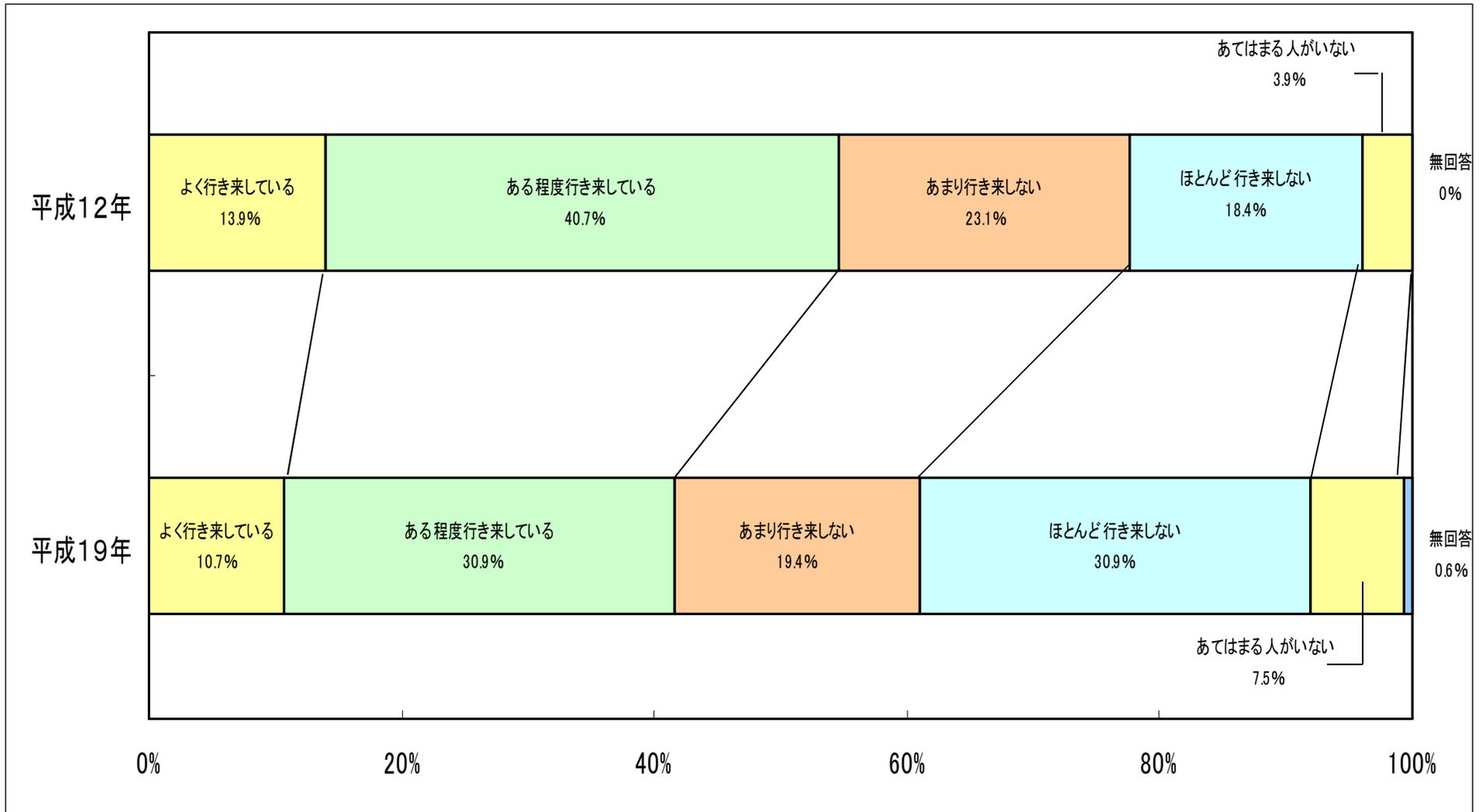
家族と過ごす時間が取れない理由

家族と過ごす時間が取れない理由としては、「仕事が忙しいから」が最も多い。



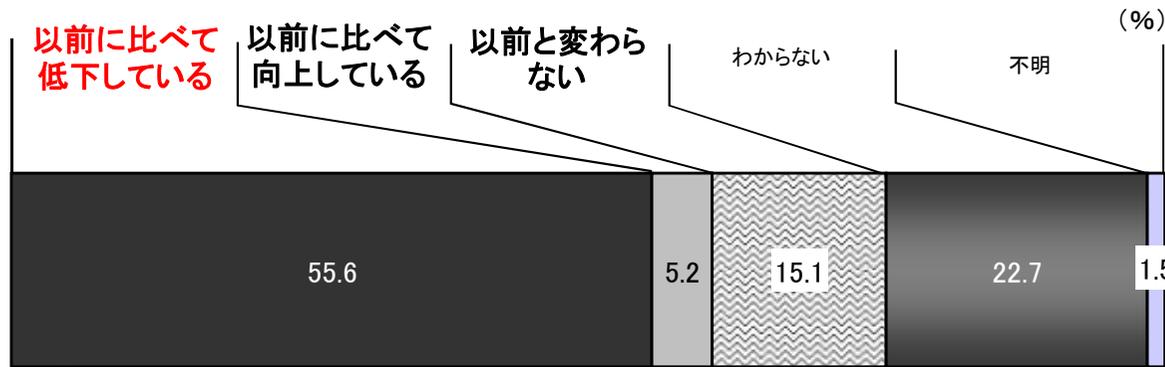
近所付き合いの程度の推移

近所との関わりが薄れている傾向。



地域の教育力に関する意識

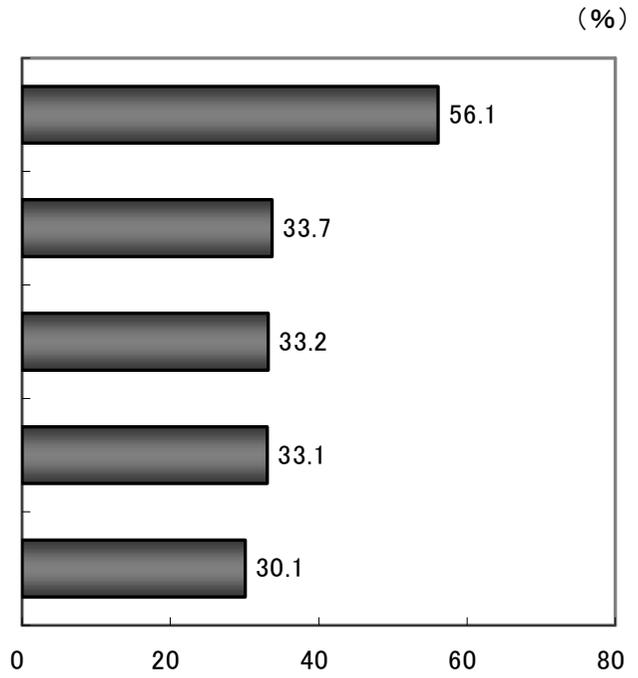
保護者に「地域の教育力」を自身の子ども時代と比較してもらったところ、過半数が「以前に比べて低下している」(55.6%)と回答。一方、「以前に比べて向上している」(5.2%)、「以前と変わらない」(15.1%)は低い割合。



その理由

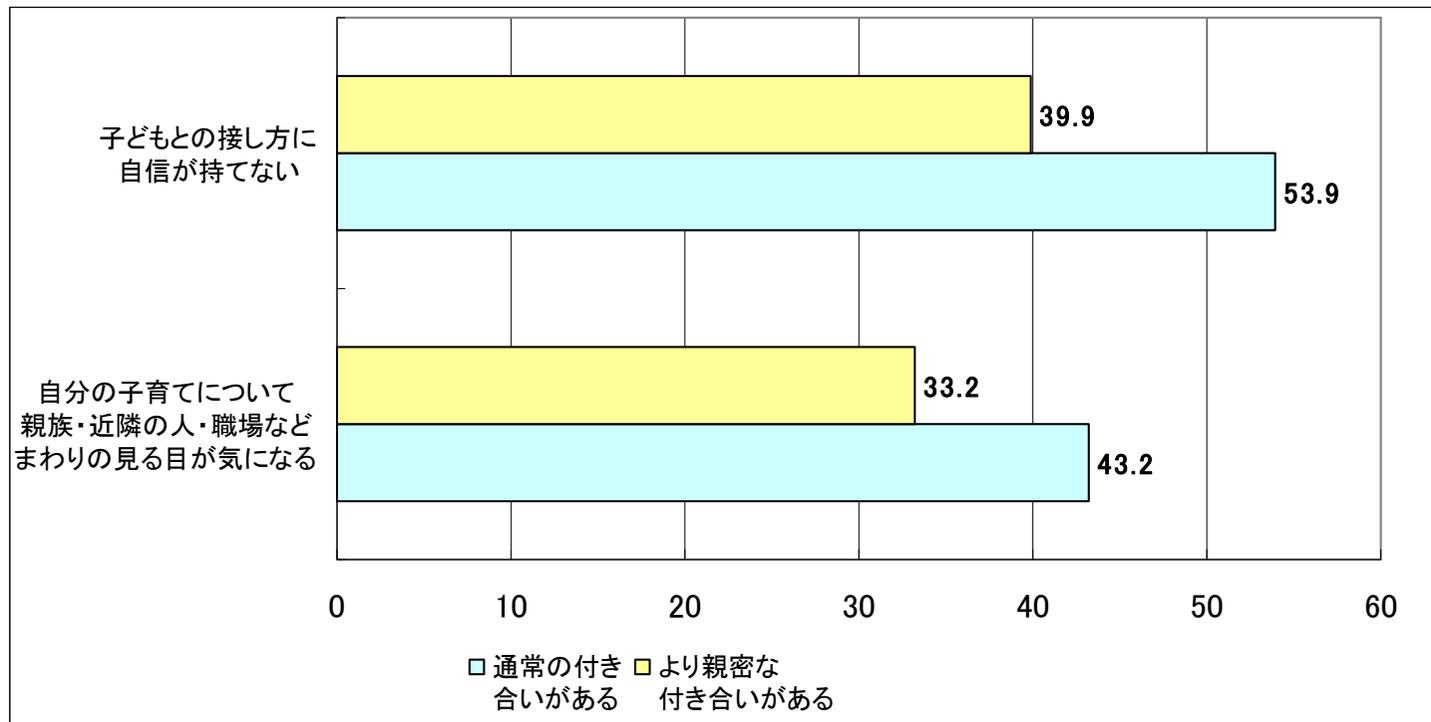
※14項目の中から3つまで選択。上記グラフは上位5項目の回答率。

- 個人主義が浸透してきているので (他人の関与を歓迎しない)
- 地域が安全でなくなり、子どもを他者と交流させることに対する抵抗が増している
- 近所の人々が親交を深められる機会が不足している
- 人々の居住地に対する親近感が希薄化している
- 母親の就労が増加している



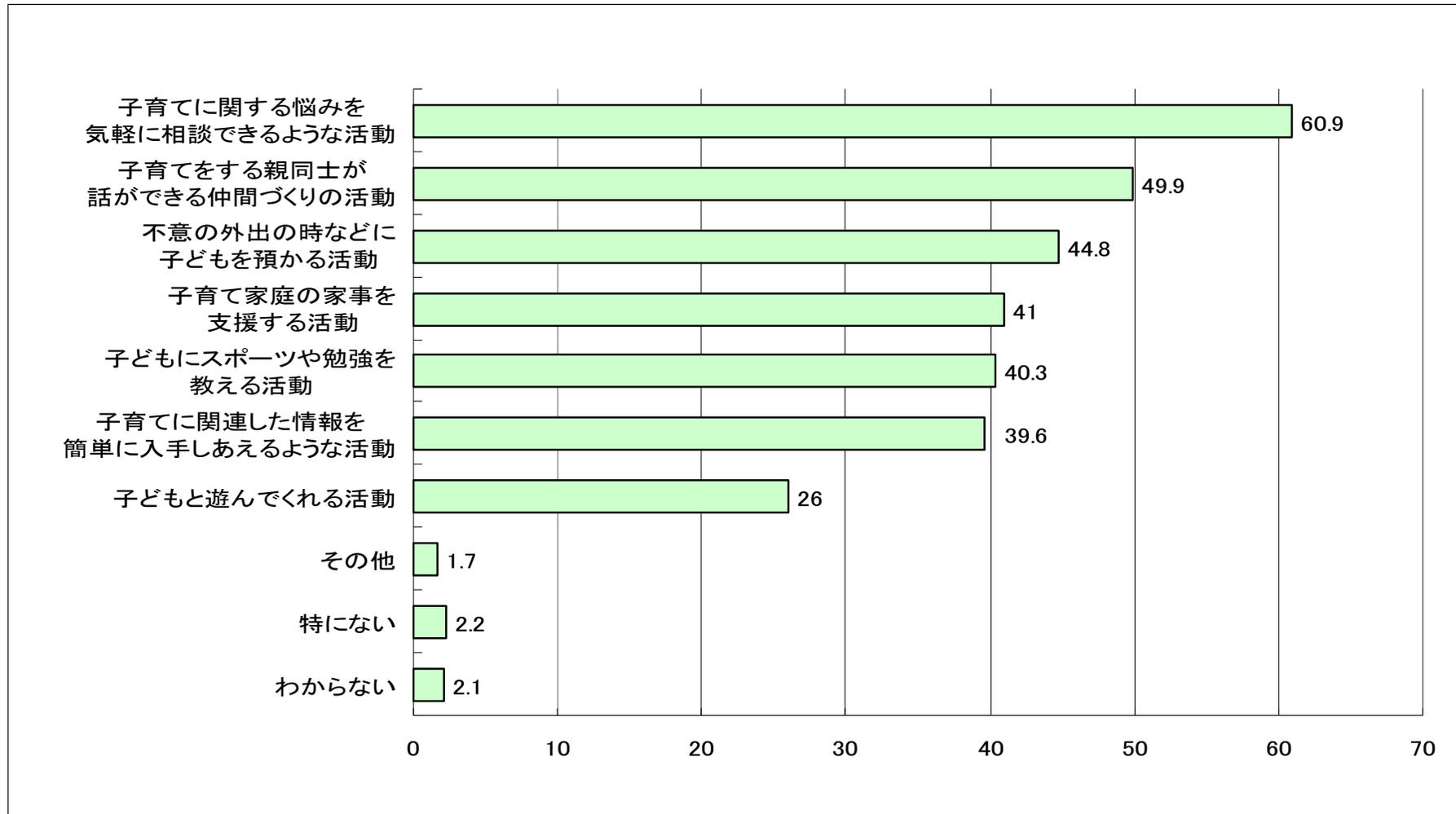
地域とのつながりと子育ての不安や悩み

地域とより親密な付き合いのある人は子育てへの不安が少ない。



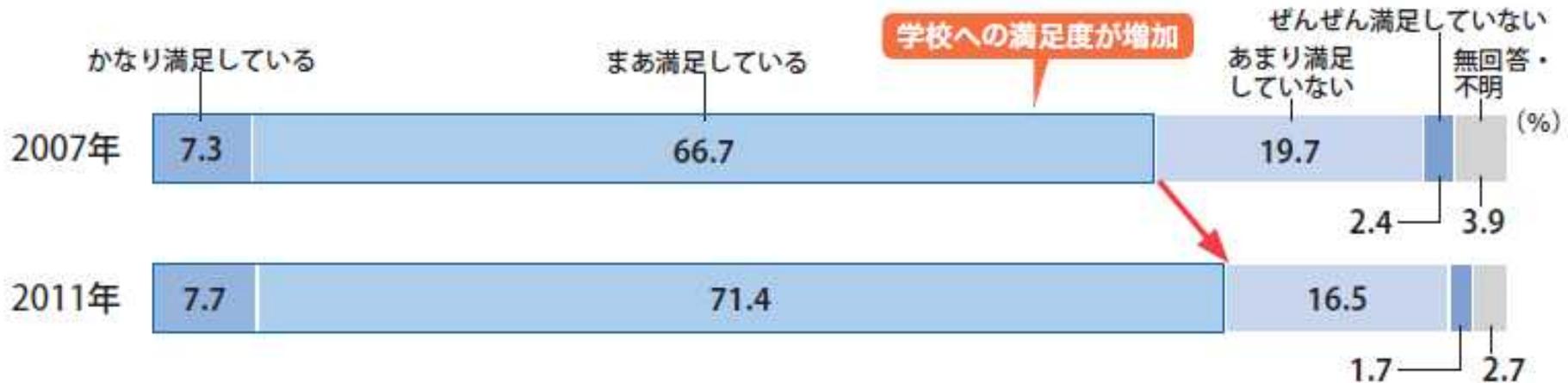
子を持つ親にとってあればいいと思う地域活動

地域で気軽に相談できる活動が必要である。



学校に対する満足度

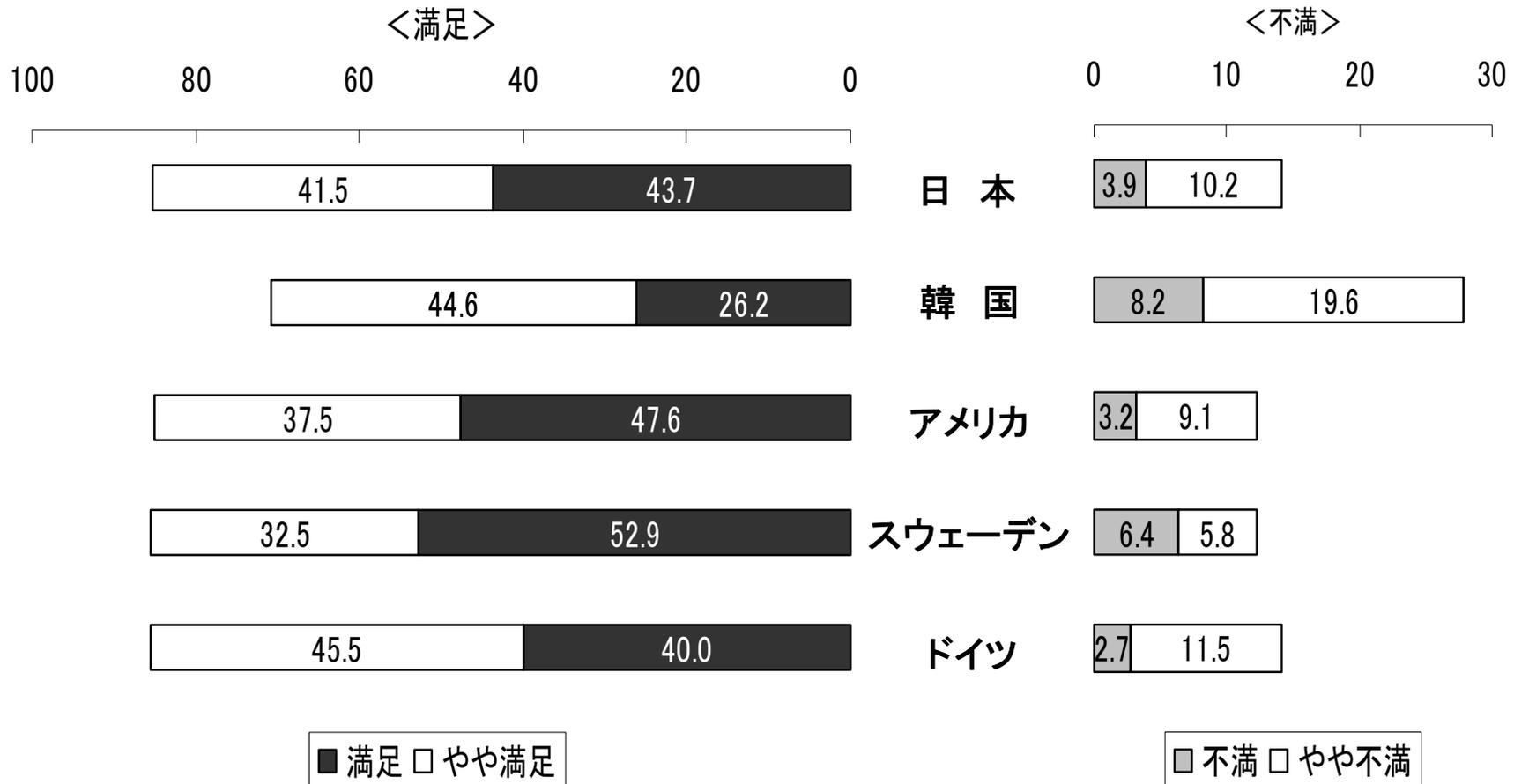
子どもが通う学校に「満足している」という回答が増えている。



注) 小1～中3生の数値。

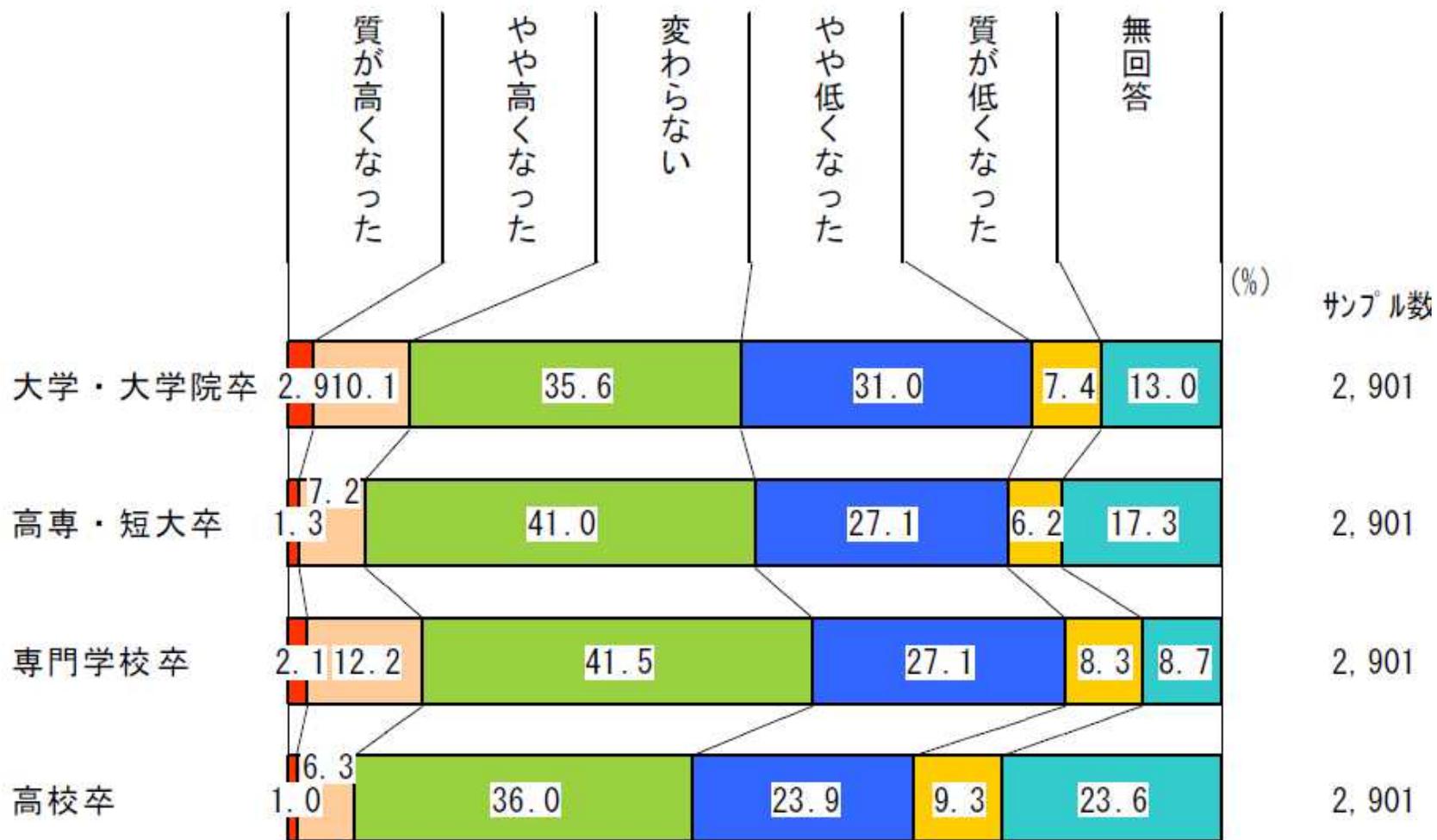
学校生活の満足度（各国比較）

各国比較でみると、『満足』はスウェーデン、ドイツ、アメリカ、日本、韓国の順で高い。
5か国の中では韓国で『不満』（27.8%）が最も高い。



企業から見た人材の現状

約3分の1の企業が、人材の質が低くなったと評価している。

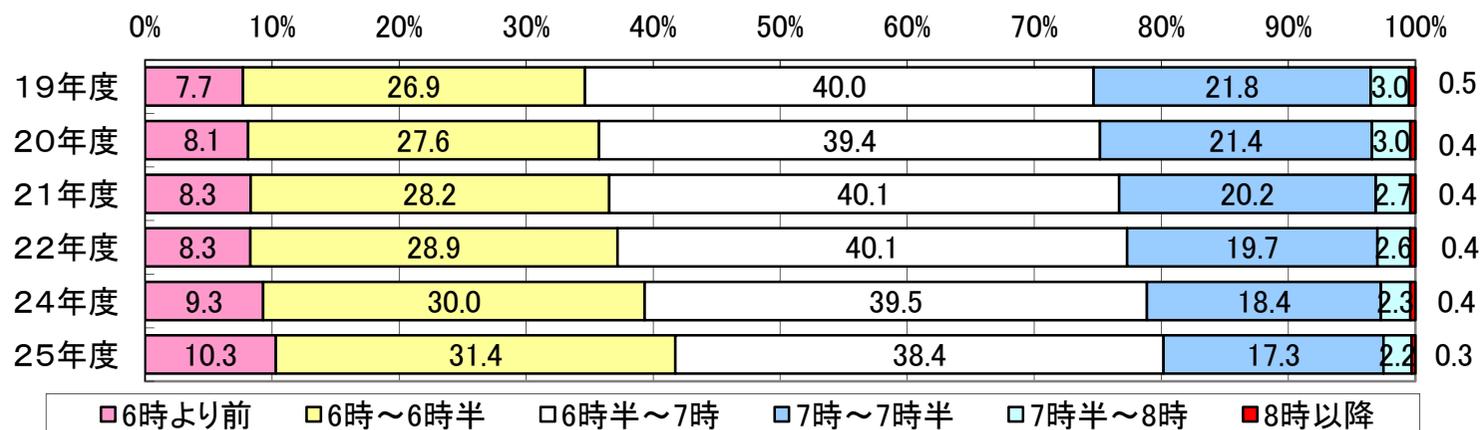


4. 子どもの状況

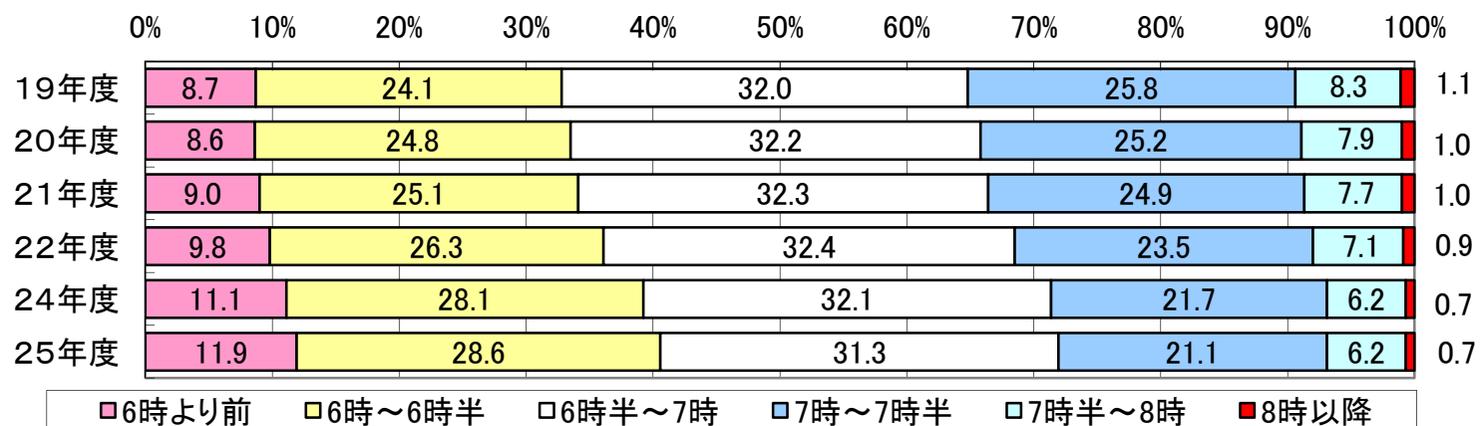
平日の起床時刻

- ◎ 朝7時より早く起きる児童生徒の割合に、若干の増加傾向がうかがえる。
- ◎ 朝7時より早く起床する児童生徒は、小学6年生で80.1%、中学3年生で71.8%。

○小学6年生



○中学3年生

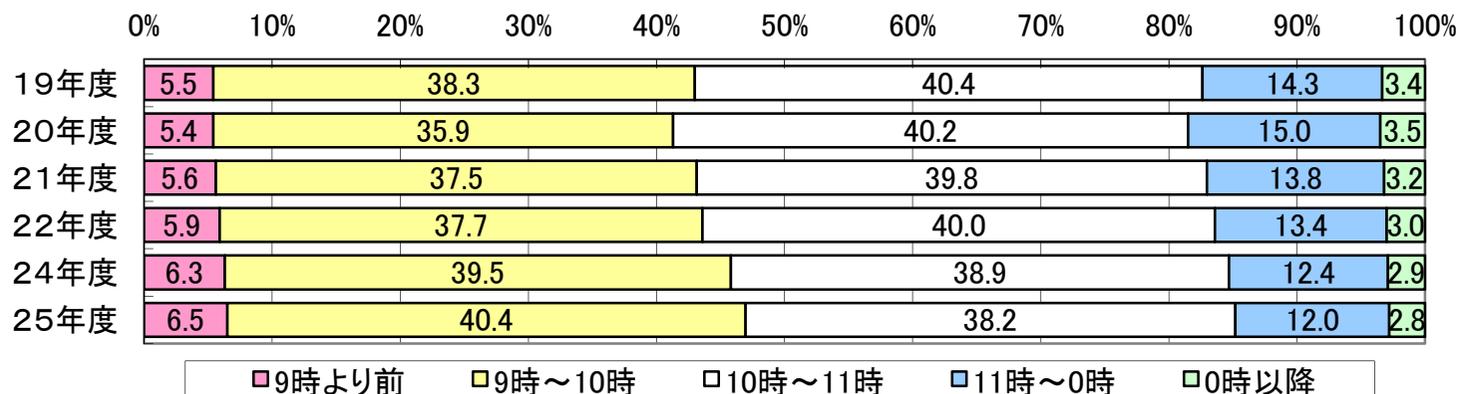


平日の就寝時刻

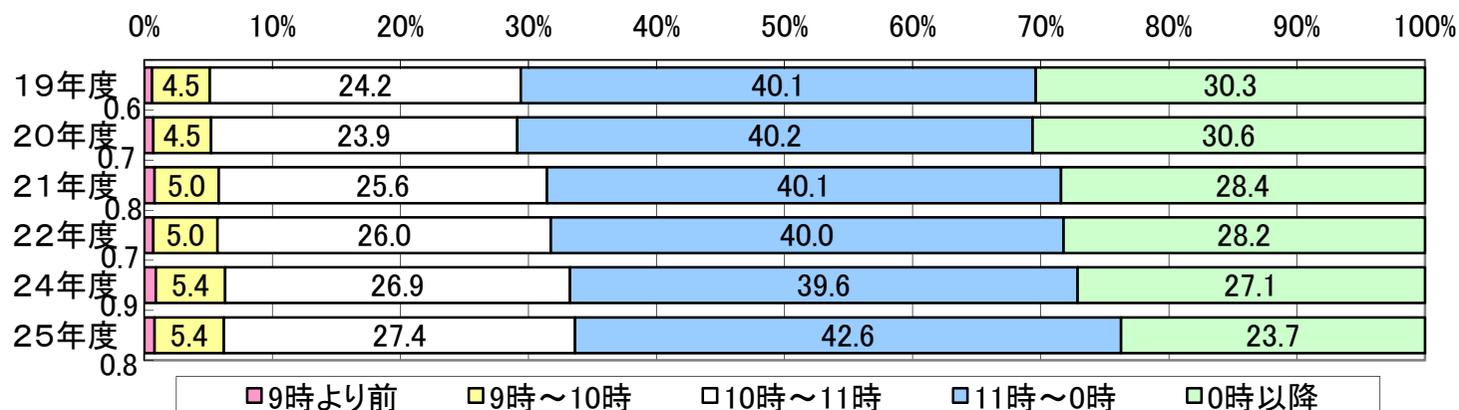
◎ 就寝が11時以降の児童が14.8%、特に0時以降就寝の児童は2.8%。

◎ 就寝が0時以降の生徒が23.7%。

○小学6年生



○中学3年生



平日の睡眠時間

睡眠時間が8時間以上の児童は74.4%、生徒23.3%。中学3年の66.5%が睡眠時間6～8時間。

○小学6年生



■ 10時間以上
 ■ 9時間以上、10時間未満
 ■ 8時間以上、9時間未満
■ 7時間以上、8時間未満
 ■ 6時間以上、7時間未満
 ■ 6時間未満

○中学3年生

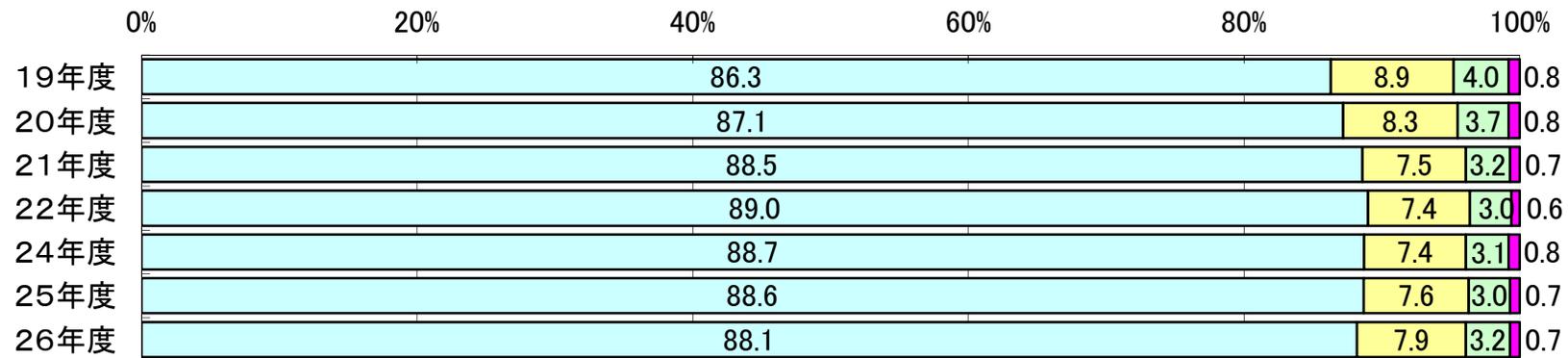


■ 10時間以上
 ■ 9時間以上、10時間未満
 ■ 8時間以上、9時間未満
■ 7時間以上、8時間未満
 ■ 6時間以上、7時間未満
 ■ 6時間未満

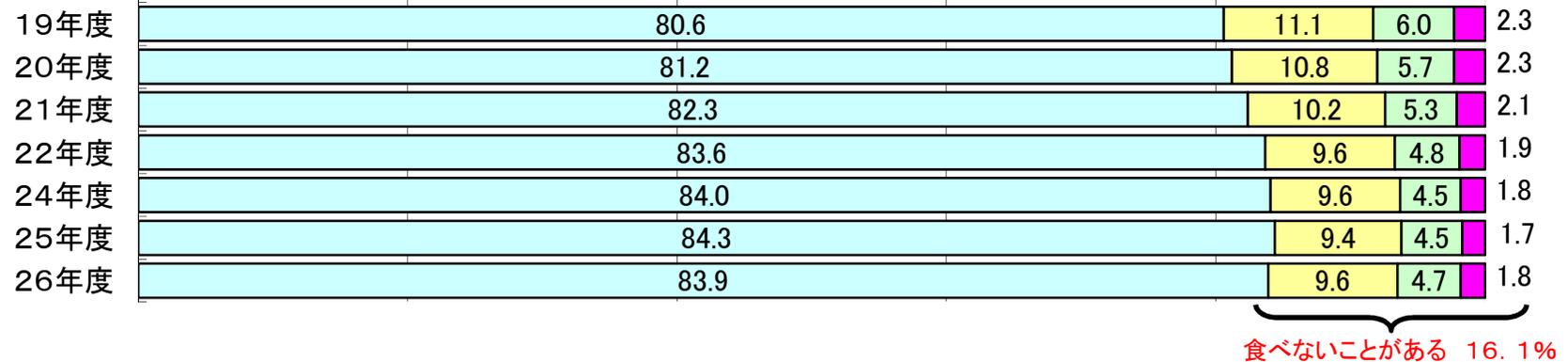
朝食を毎日食べる児童生徒の割合

朝食を毎日食べる児童生徒の割合に増加傾向がうかがえるが、**食べないことがある児童生徒が、小6で11.8%、中3で16.1%。**

小学生(6年)



中学生(3年)



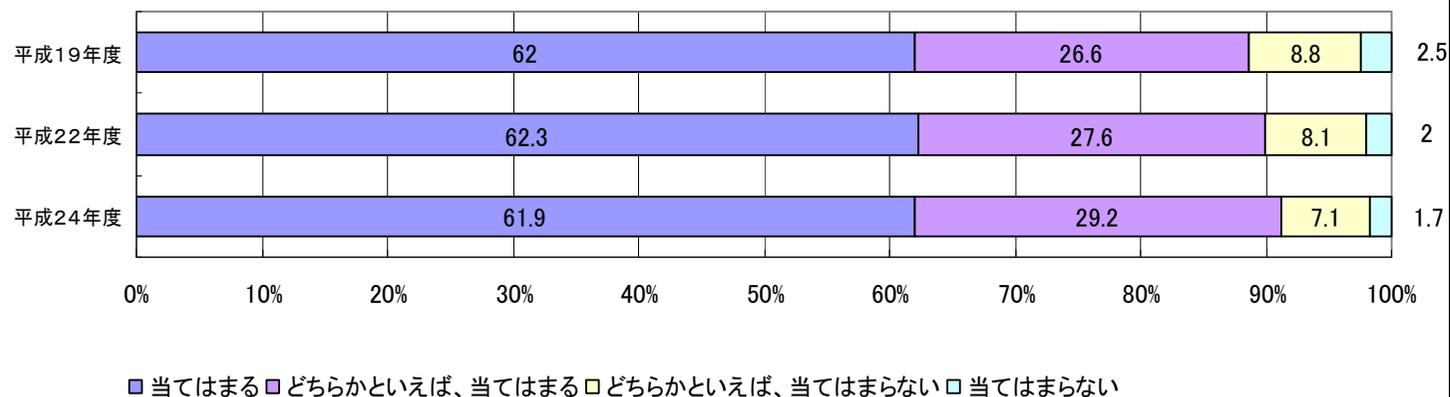
□している □どちらかといえば、している □あまりしていない ■全くしていない

あいさつ

小学生、中学生の約9割が近所の人にあいさつをしている。

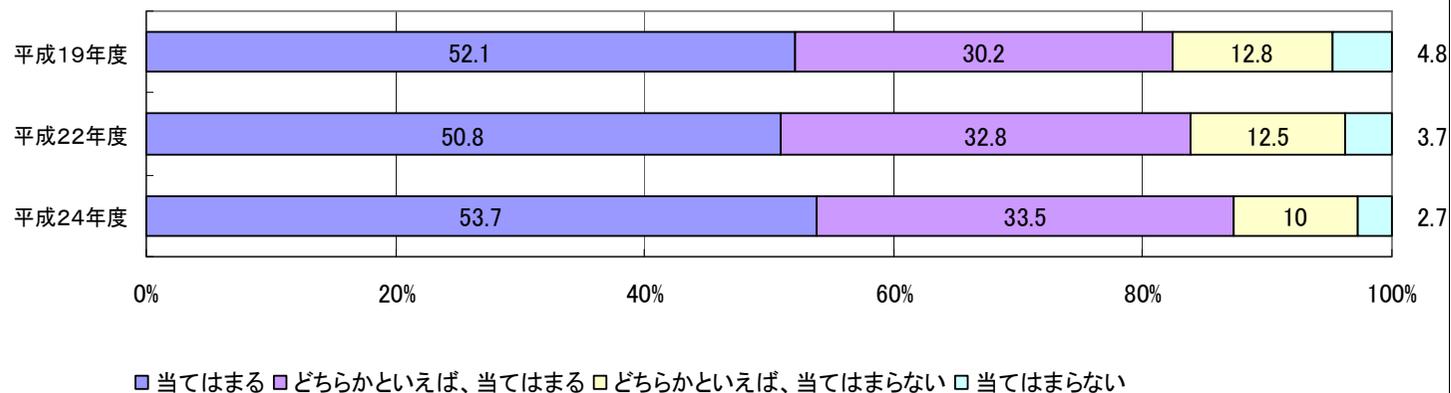
小学生(6年)

近所の人に出会ったときは、あいさつをしていますか



中学生(3年)

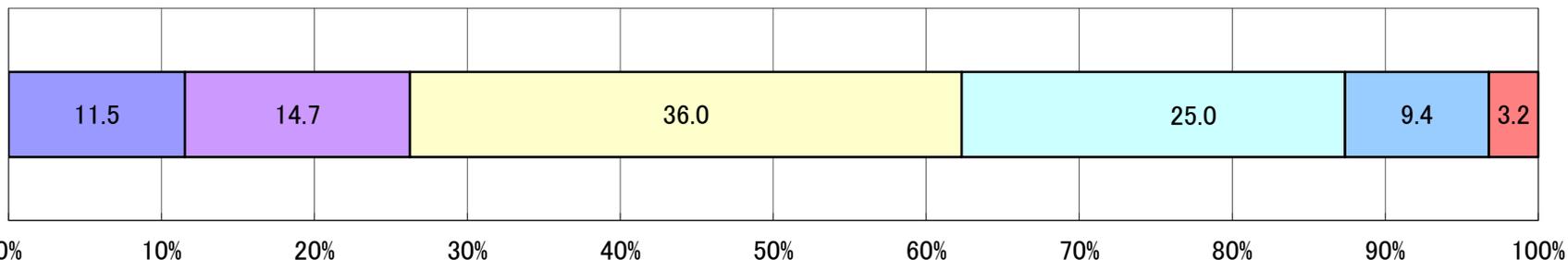
近所の人に出会ったときは、あいさつをしていますか



学習習慣（小学6年生）

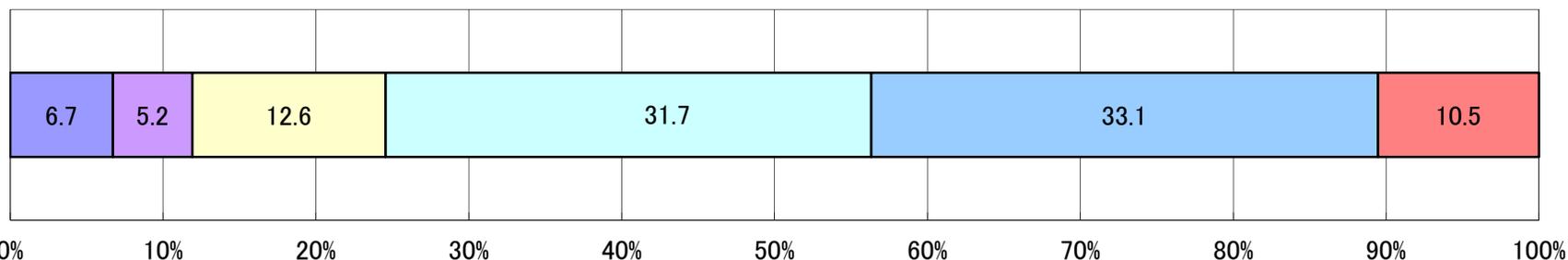
普段、学校外での学習時間が1時間未満の児童の割合は38%。

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか



■3時間以上 ■2時間以上、3時間より少ない □1時間以上、2時間より少ない □30分以上、1時間より少ない ■30分より少ない ■全くしない

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか

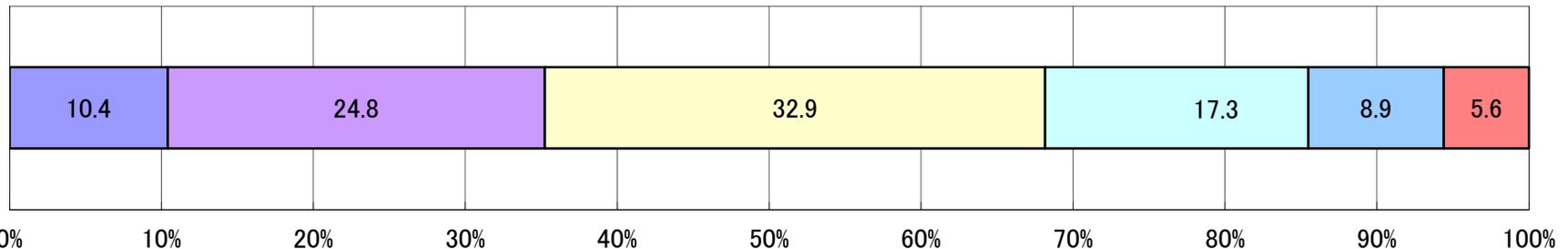


■4時間以上 ■3時間以上、4時間より少ない □2時間以上、3時間より少ない □1時間以上、2時間より少ない ■1時間より少ない ■全くしない

学習習慣（中学3年生）

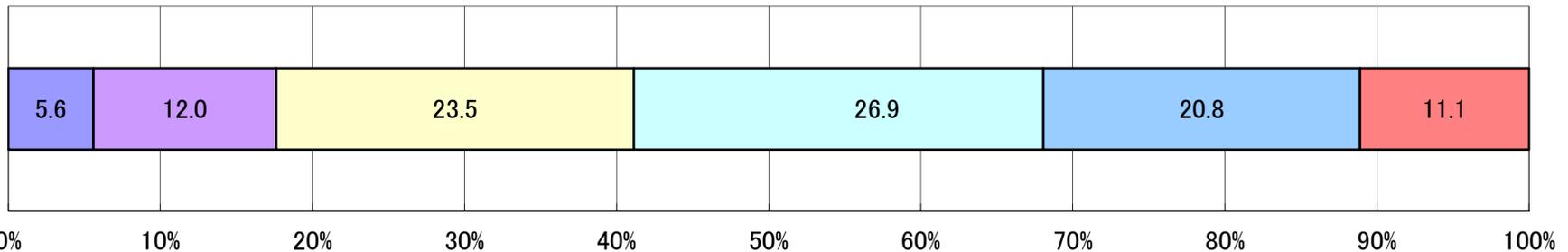
普段、学校外での学習時間が1時間未満の児童の割合は40%。

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか



■3時間以上 ■2時間以上、3時間より少ない □1時間以上、2時間より少ない □30分以上、1時間より少ない ■30分より少ない ■全くしない

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか



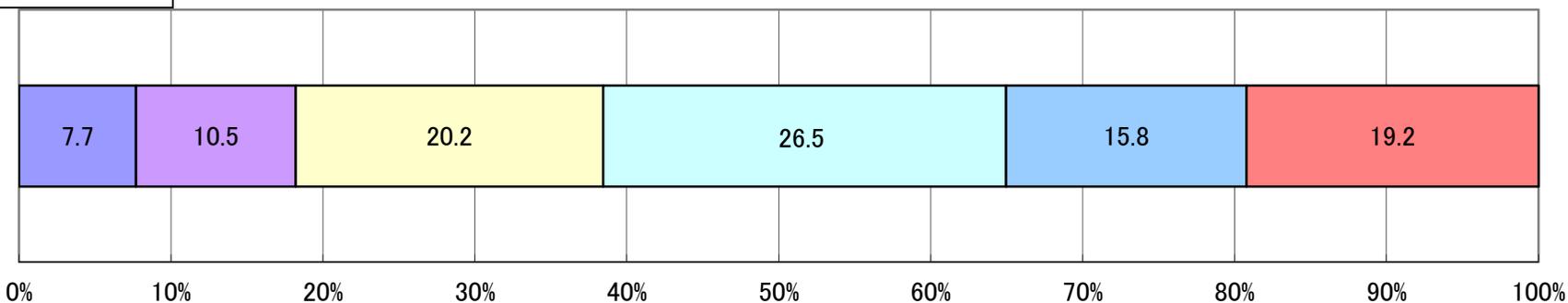
■4時間以上 ■3時間以上、4時間より少ない □2時間以上、3時間より少ない □1時間以上、2時間より少ない ■1時間より少ない ■全くしない

読書習慣

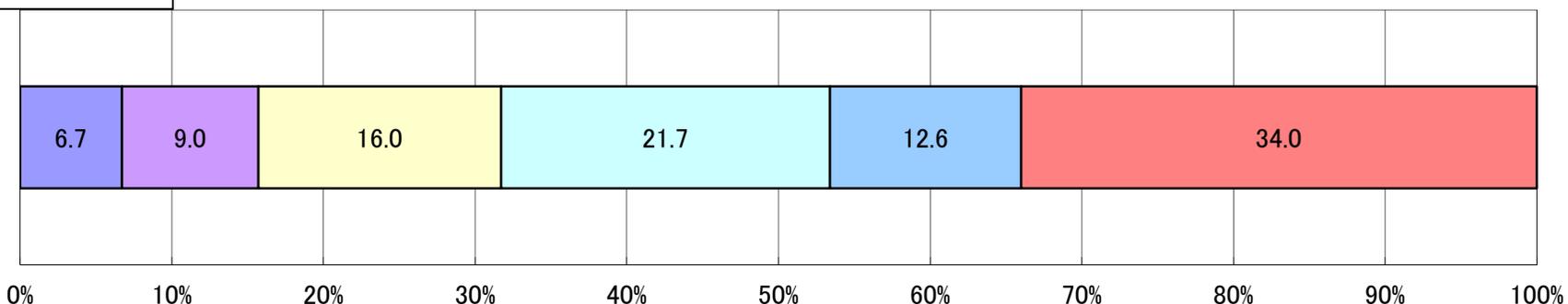
普段、全く読書をしない生徒は3割超。

学校の授業時間以外に、普段、一日あたりどれくらいの時間、読書をしますか

小学6年生



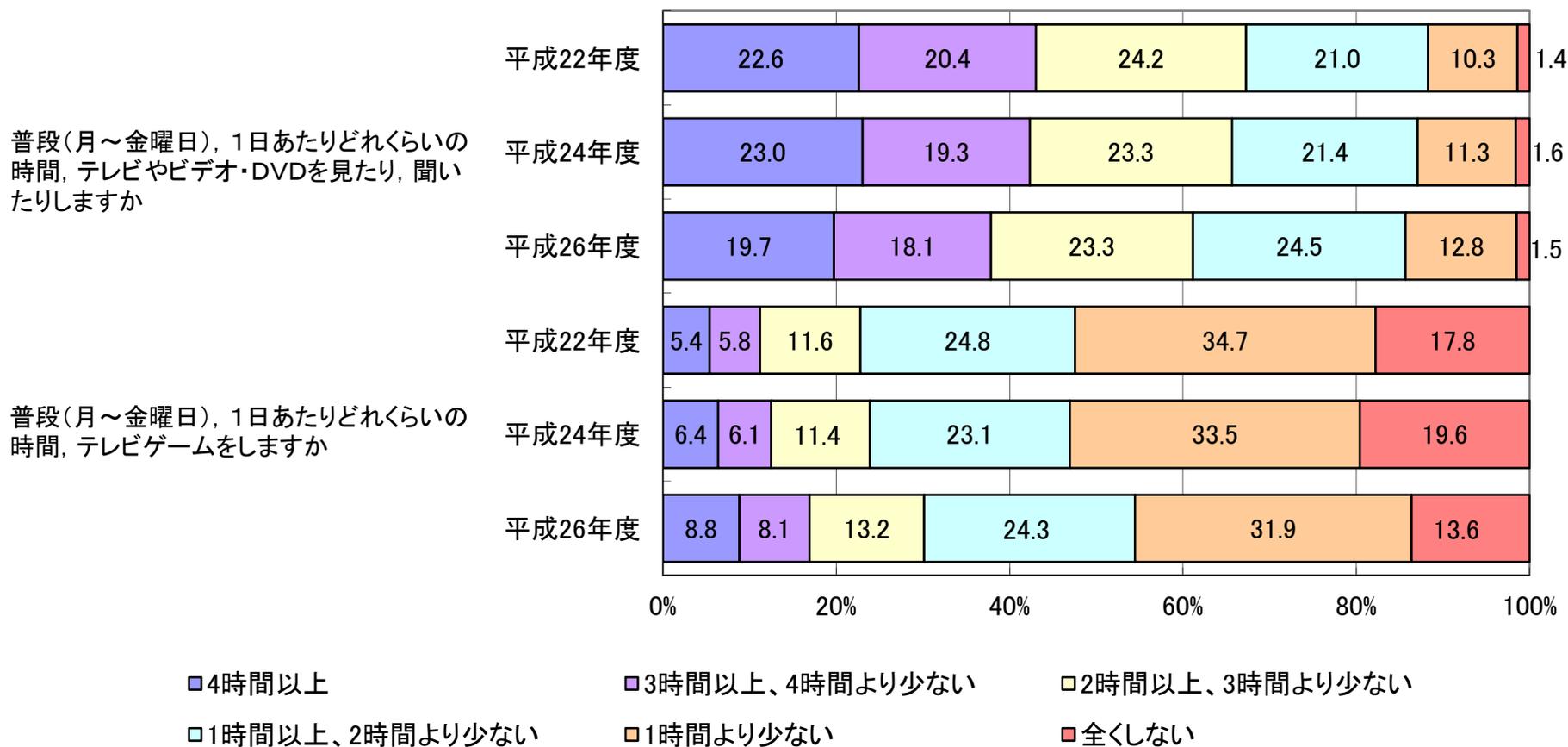
中学3年生



- 2時間以上
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 10分以上、30分より少ない
- 10分より少ない
- 全くしない

テレビ・ゲーム等の利用時間（小学6年生）

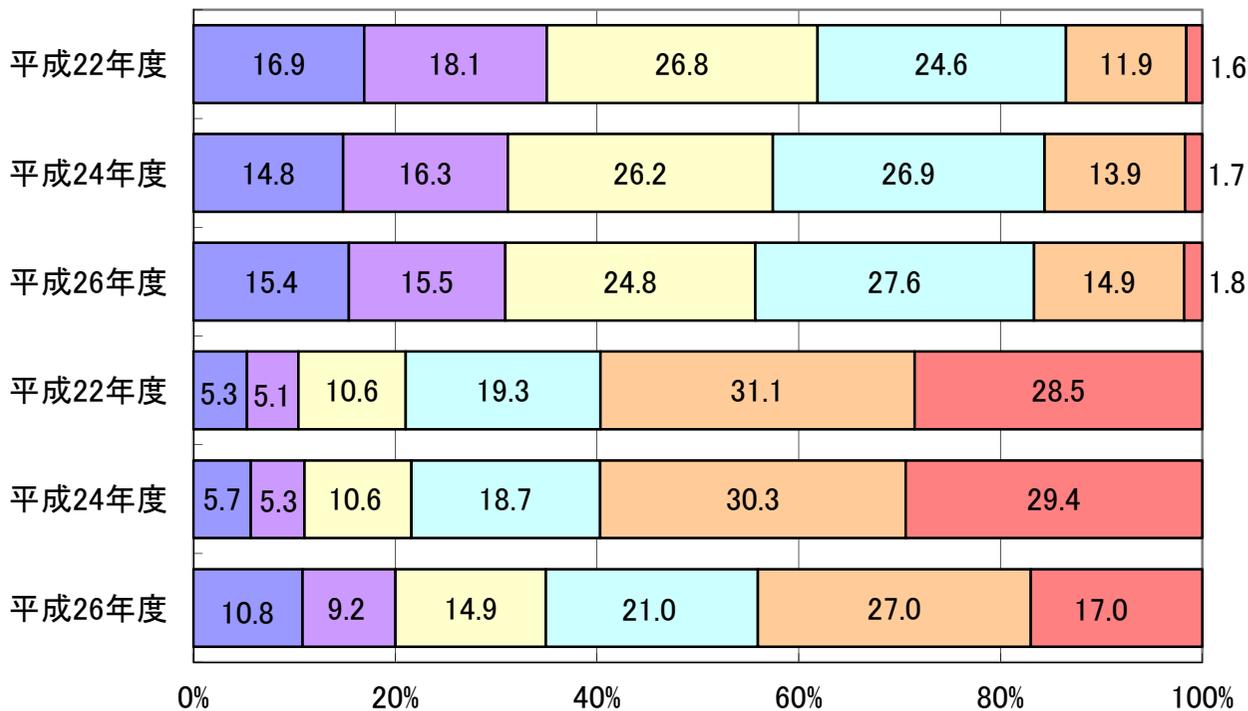
普段、テレビなどを2時間以上見ている児童の割合は6割を超えている。
（テレビゲームを2時間以上している割合は3割超）



テレビ・ゲーム等の利用時間（中学3年生）

普段、テレビなどを2時間以上見ている生徒の割合は5割を超えている。
（テレビゲームを2時間以上している割合は3割超）

普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか

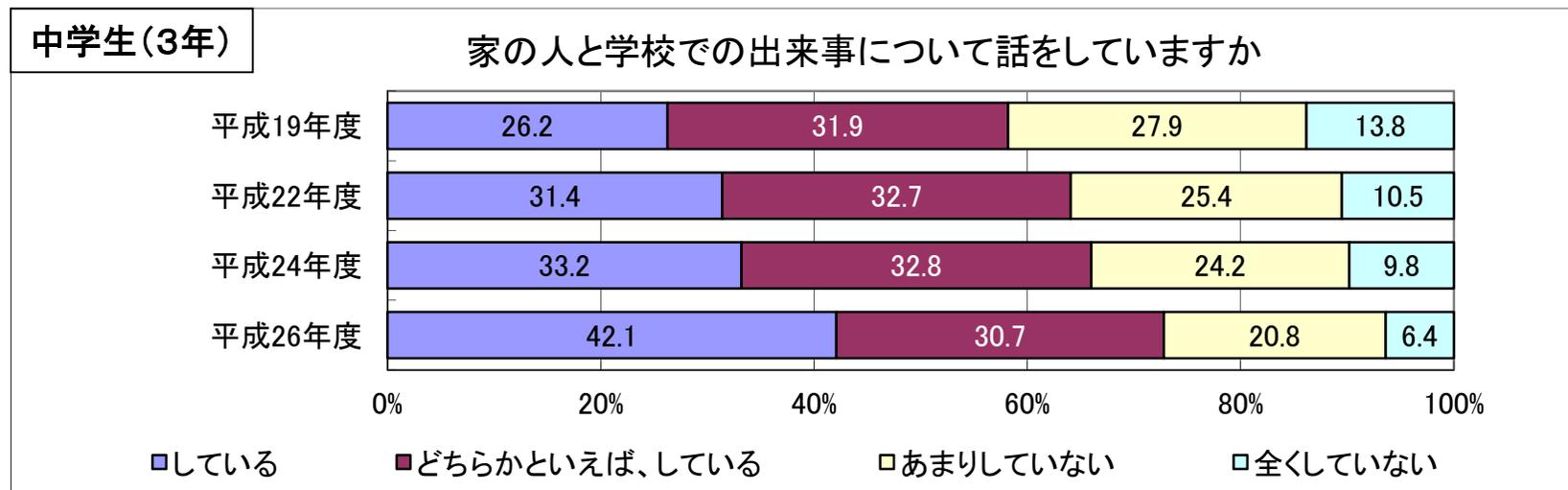
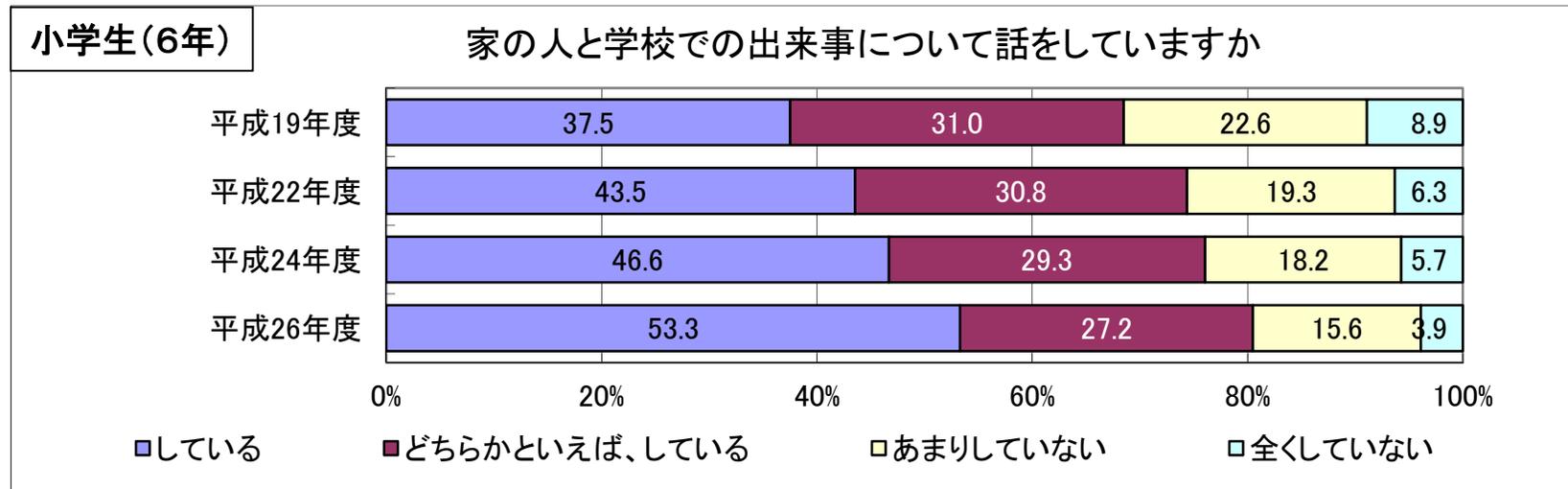


普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

- 4時間以上
- 3時間以上、4時間より少ない
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 1時間より少ない
- 全くしない

家族でのコミュニケーション

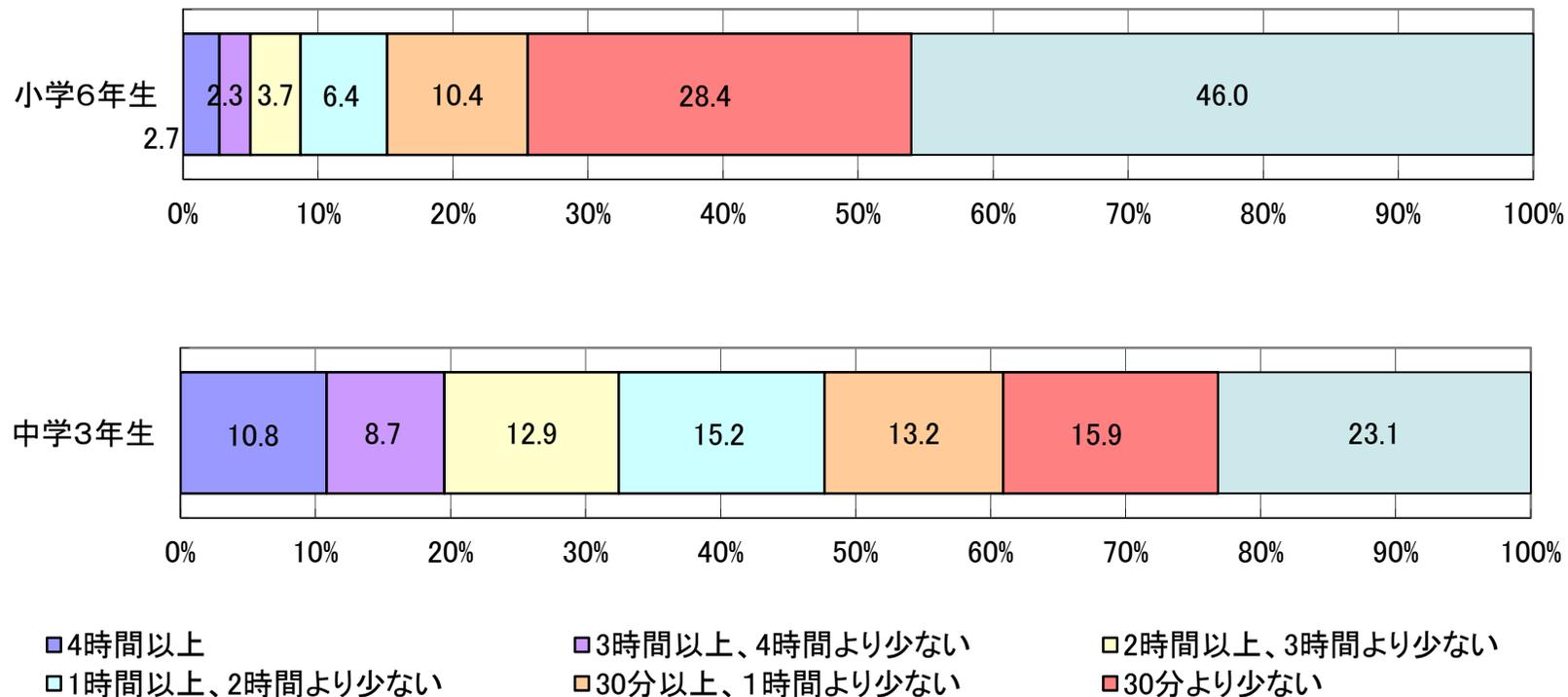
小学生の約20%、中学生の約27%が家族に学校での出来事をあまり話していない。



携帯電話やスマートフォンの利用時間

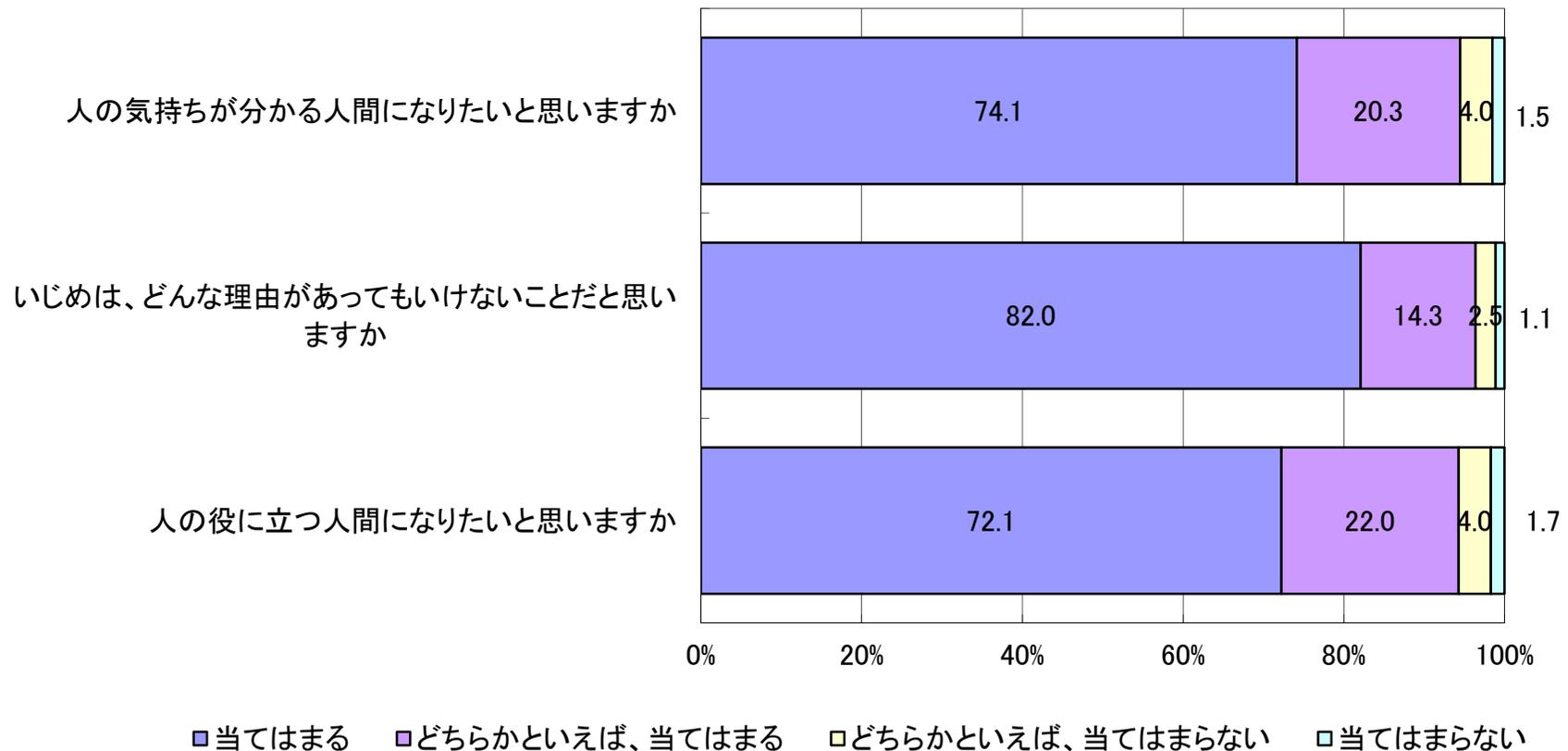
普段、携帯電話やスマートフォンを2時間以上利用している生徒の割合は3割を超えている。

普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか



思いやりや倫理観（小学6年生）

気持ちがわかる人間になりたい、いじめはいけない、人の役に立ちたい、と回答した児童の割合は90%を超えている。



思いやりや倫理観（中学3年生）

気持ちがわかる人間になりたい、いじめはいけない、人の役に立ちたい、と回答した生徒の割合は90%を超えている。

